

Oracle® WebCenter Sites

Oracle WebLogic Application Server へのインストール

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69404-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites: Oracle WebLogic Application Server へのインストール , 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69404-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites: Installing on Oracle WebLogic Application Server, 11g Release 1 (11.1.1)

原本主著者 : Melinda Rubenau

原本協力者 : Eric Gandt, Gaurang Mavadiya

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するするために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

このガイドについて	5
対象読者	5
関連ドキュメント	5
このガイド内の図	6
表記規則	6
サード・パーティのライセンス	6
1 はじめに	7
このガイドの構成	8
Oracle WebCenter Sites をインストールする前に	8
インストールのクイック・リファレンス	9
このガイドで使用するパスおよびディレクトリ	12

第1部 データベース

2 データベースのセットアップ	15
-----------------------	----

第2部 アプリケーション・サーバー

3 WebLogic Server のインストール	19
起動および停止のコマンド	20
WebLogic Server のインストール	21
4 Web インストールのための WebLogic Server の構成	27
WebLogic Server ドメインの作成および構成	28
環境変数の設定	39
(オプション) ホスト名検証の無効化	39
コマンドライン	39

管理コンソール.....	40
トンネリングの有効化.....	41
Max PermGen パラメータの設定.....	42
JAVA_OPTIONS の設定	43
CLASSPATH および PRE_CLASSPATH の設定	44
データ・ソースの作成および構成.....	44
A. データ・ソースの作成	44
B. 接続プール・サイズの構成.....	47
Web アプリケーションのデプロイ	49
コマンドラインを使用した Web アプリケーションのデプロイ	49
管理コンソールを使用した Web アプリケーションのデプロイ	50

第 3 部 Web サーバー

5 Web サーバーのインストールおよび構成.....	55
Apache 2.2.x プラグインのインストールおよび構成	56
IIS 7.0 以降用の IIS プラグインのインストールおよび構成	57

第 4 部 Oracle WebCenter Sites

6 Oracle WebCenter Sites のインストールおよび構成	63
WebCenter Sites のインストールの概要	64
インストールのオプション.....	64
Web アプリケーションとしての WebCenter Sites のインストール	65
GUI インストーラの実行	65
インストール後の手順.....	71
A. ファイルの権限の設定 (UNIX のみ)	71
B. XML パーサーのロード.....	71
C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリ の追加.....	71
D. WebCenter Sites のインストールの検証	72
E. WebLogic の本番モードへの切替え (配信システムのみ)	76
F. WebCenter Sites との Oracle Access Manager (OAM) の統合 (オプション).....	77
G. LDAP の統合	77
WebCenter Sites クラスタのセットアップ (オプション).....	78
A. 管理対象サーバーの追加	78
B. 追加のクラスタ・メンバーの作成.....	79
C. クラスタの作成および構成	79
D. CAS クラスタのセットアップ (オプション).....	80
E. CAS の再デプロイ (オプション)	81
業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ	81

このガイドについて

このガイドでは、Oracle WebLogic Application Server に Oracle WebCenter Sites をインストールし、選択したサポートされているデータベースに接続する手順について説明します。これには、単一メンバー環境および垂直クラスタ環境における WebCenter Sites のインストール手順も含まれます。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- *Oracle WebCenter Sites* は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites* を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークは、以前は *FatWire Web* エクスペリエンス管理フレームワークと呼ばれていた環境の現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークを *Web* エクスペリエンス管理フレームワークまたは *WEM* フレームワークと呼ぶこともあります。

対象読者

このガイドは、インストール・エンジニアと、データベース、Web サーバーおよびアプリケーション・サーバーのインストールおよび構成の経験者を対象としています。

関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*
- *Oracle WebCenter Sites: LDAP* との統合
- *Oracle WebCenter Sites WEM フレームワーク管理者ガイド*
- *『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』*
- *『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』*

このガイド内の図

このガイドの多くの手順では、その手順を完了するために使用するダイアログ・ボックスおよび類似ウィンドウのスクリーン・キャプチャを示しています。スクリーン・キャプチャは、手順を理解しやすくするために記載しています。パラメータ値、選択するオプション、製品バージョン番号など特定の情報を示すことは目的としていません。

表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インターフェース要素を示します。
- **斜体**は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- **等幅太字フォント**は、コマンドを示します。

サード・パーティのライセンス

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライセンスが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス*を参照してください。

第 1 章

はじめに

この章では、WebCenter Sites のインストール準備に役立つ情報を提供します。この章は、次の項で構成されています。

- このガイドの構成
- Oracle WebCenter Sites をインストールする前に
- インストールのクイック・リファレンス
- このガイドで使用するパスおよびディレクトリ

このガイドの構成

このガイドでは、単一メンバー環境およびクラスタ環境における WebCenter Sites のインストール手順について説明します。このガイドでは、WebCenter Sites のサポートに必要な WebLogic Server のインストールおよび構成についても説明します。これには、管理サーバーおよび管理対象サーバーを含むドメインの構成と、バックエンド・データベースの作成が含まれます。このガイドの最後の章では、WebCenter Sites のインストール方法について説明します。

このガイドの内容は、インストールを完了する手順ごとではなく、機能別に編成されています。たとえば、アプリケーション・デプロイメントなどの機能はアプリケーション・サーバーに関連しています。これは、実際には WebCenter Sites をインストールするとき(第 IV 部)に実行するのですが、アプリケーション・サーバーについて説明している第 II 部で紹介します。WebCenter Sites インストールの主な各コンポーネントについては、それ自体の部で説明しています。必要なインストール手順の要約を、この章の終わりに示します([9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」](#)を参照)。

このガイドでは、次のトピックは取り上げていません。

- LDAP の統合。このトピックの詳細は、*Oracle WebCenter Sites: LDAP との統合*を参照してください。
- CAS クラスタリング。このトピックの詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。
- Oracle Access Manager (OAM) の統合。このトピックの詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。

Oracle WebCenter Sites をインストールする前に

- *Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス*を参照し、現在サポートされているサードパーティ製品をインストールしていることを確認します。
- このガイドでは、サードパーティ製品の構成に関する選択された情報のみを提供しています。詳細および最新の e-fix、パッチ、およびサービス・パックの入手方法については、サードパーティ製品のベンダーのドキュメントおよびリリース・ノートを参照してください。
- 提供されているインストーラを GUI またはサイレント・インストール・モードのいずれかで実行することで、WebCenter Sites をインストールおよびデプロイできます。GUI インストーラを実行すると、グラフィカル・インターフェースによってインストール手順が示され、必要に応じて情報の入力およびオプションの選択が要求されます。また、オンライン・ヘルプにアクセスすることもできます。サイレント・インストールの場合は、提供されているサンプル `omii.ini` ファイルの 1 つに、そのファイル内のコメントを参考にしてインストール設定を入力します。このファイルは、WebCenter Sites のインストールに使用されます。

- 環境内のすべてのシステムで WebCenter Sites インストーラを実行します。システムには、コンテンツ管理または開発（これらのインストール・プロセスは同じ）と、配信の2つのタイプがあります。コンテンツ管理システムと開発システムは同じモードで実行されますが、使用目的が異なります。

注意

- システム・タイプは、そのタイプを選択して「次へ」(GUI インストール)をクリックしたりサイレント・インストーラを開始した後は変更できません。
 - このインストール・プロセスでは、配信システムにユーザー・インターフェースはインストールされません。ただし、選択機能の管理を有効にするための限られたバージョンの WebCenter Sites の Admin インタフェースは例外です。
 - 実際の WebCenter Sites 環境でのシステムの名前は、このドキュメントで使用している名前と異なる場合があります。通常、コンテンツ管理システムはステージング、配信システムは本番とも呼ばれます。
-
- CLASSPATH および PATH 環境変数から Java Runtime Environment の古いバージョンを削除します。

インストールのクイック・リファレンス

WebCenter Sites をサポートするサードパーティ・コンポーネントをインストールおよび構成した後、WebCenter Sites を使用する各開発システム、コンテンツ管理システム、および配信システムで WebCenter Sites インストーラを実行します。WebCenter Sites のインストール中に、サンプル・サイトおよびサンプル・コンテンツをインストールすることもできます。

次の手順は、WebCenter Sites およびそのサポートするソフトウェアのインストールおよび構成の概要です。この手順を手元に置いて、インストール手順および詳細な手順を示す各章に対するクイック・リファレンスとしてください。

開発、コンテンツ管理、配信の各システムに対して次の手順を完了します。

I. データベースのセットアップ

データベース管理システムをインストールし、WebCenter Sites 用のデータベースを作成し、そのデータベースを構成することで、選択したサポートされているデータベースをセットアップします。詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。

II. アプリケーション・サーバーのセットアップ

1. WebLogic Server をインストールします。手順については、[第3章「WebLogic Server のインストール」](#)を参照してください。

注意

この章では、このガイドで使用されるサーバーを起動および停止するためのコマンドについても説明します。

2. [28ページの「WebLogic Server ドメインの作成および構成」](#)に示すように WebLogic Server ドメインを作成および構成します。この手順では、次を実行する必要があります。
 - a. ドメインの管理サーバーを作成します。
 - b. 本番環境の管理対象サーバーを作成し、クラスタ環境をセットアップする場合は、クラスタ・メンバーごとに管理対象サーバーを作成します。
 - c. ドメインに名前を付けます。
3. デプロイメントおよびデータベース通信のための環境をセットアップします。この手順では、次を実行する必要があります。
 - a. 環境変数を設定し、すべてのサーバーが正しい JDK を使用するようにします。手順については、[39ページの「環境変数の設定」](#)を参照してください。
 - b. (オプション) 非本番システムに対してホスト名検証を無効化します。手順については、[39ページの「\(オプション\) ホスト名検証の無効化」](#)を参照してください。
 - c. WebCenter Sites のデプロイ先となるすべてのサーバーでトンネリングを有効化します。トンネリングにより、`weblogic.Deployer` ユーティリティを使用して (WebCenter Sites をデプロイする) コマンドを実行できるようになります。手順については、[41ページの「トンネリングの有効化」](#)を参照してください。
 - d. データ・ソースを設定します。手順については、[44ページの「データ・ソースの作成および構成」](#)を参照してください。

III. (オプション) Web サーバーのセットアップ

WebLogic Server を Apache または IIS Web サーバーと統合する場合は、[第5章「Web サーバーのインストールおよび構成」](#)の手順に従います。

IV. WebCenter Sites のインストール

1. WebCenter Sites インストーラを実行する前に、次の事項を確認します。
 - WebCenter Sites のインストール先となるディレクトリを作成済であること。ディレクトリ名およびパスには空白を含めることはできず、アプリケーション・サーバーがそのディレクトリに対して読み取りおよび書き込み可能であることが必要です。
 - クラスタ化インストールの場合は、次のものを作成済であること。
 - 管理対象サーバー。このサーバーに WebCenter Sites をインストールします。

- すべてのクラスタ・メンバーが読み取りおよび書き込みできる共有ファイル・システム・ディレクトリ。このディレクトリ名およびパスには空白を含めることはできません。次の事項に注意してください。
 - 配信システムの場合、共有ファイル・システム・ディレクトリのデフォルトの場所は、WebCenter Sites がインストールされているディレクトリを含むディレクトリです。
 - コンテンツ管理および開発のシステムの場合、共有ファイル・システム・ディレクトリのデフォルトの場所は、WebCenter Sites がインストールされているディレクトリ内です。
 - JDK /bin ディレクトリをパス変数に追加済であること。
 - 使用システムが WebCenter Sites インストーラ GUI を表示可能であること。インストーラはテキスト・モードでは機能しません。
2. GUI インストーラまたはサイレント・インストーラを実行することで Web アプリケーションとして WebCenter Sites をインストールします。手順については、65 ページの「[Web アプリケーションとしての WebCenter Sites のインストール](#)」を参照してください。
- インストールの途中で WebCenter Sites アプリケーションを手動でデプロイし、残りの手順を実行してインストールを完了します。手順については、49 ページの「[Web アプリケーションのデプロイ](#)」を参照してください。
3. 使用システムに適したインストール後の手順を完了します。完全な手順については、71 ページの「[インストール後の手順](#)」を参照してください。
- a. UNIX 上に WebCenter Sites をインストールした場合は、71 ページの「[ファイルの権限の設定 \(UNIX のみ\)](#)」の手順に従うことで WebCenter Sites バイナリの権限を設定します。
 - b. WebCenter Sites には、Microsoft XML Parser の変更されたバージョン (WEB-INF/lib ディレクトリにある msxml.jar) が含まれています。Microsoft XML Parser の異なるバージョンが WebCenter Sites CLASSPATH 環境変数で参照されている場合は、WebCenter Sites で使用されるバージョンを参照するようにパスを変更する必要があります。そうしないと、解析時に WebCenter Sites が失敗します。詳細は、71 ページの「[XML パーサーのロード](#)」を参照してください。
 - c. 71 ページの「[ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加](#)」の説明に従って、WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリをライブラリ・パス変数に追加します。
 - d. Oracle WebCenter Sites に全体管理者としてログインし、WebCenter Sites の Admin インタフェースおよび Contributor インタフェースにアクセスすることで WebCenter Sites のインストールを確認します。手順については、72 ページの「[WebCenter Sites のインストールの検証](#)」を参照してください。
 - e. インストールした WebCenter Sites システムが配信システムである場合は、WebLogic を本番モードに切り替えます。手順については、76 ページの「[WebLogic の本番モードへの切替え \(配信システムのみ\)](#)」を参照してください。
 - f. CAS を Oracle Access Manager (OAM) に置き換える場合は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*の手順に従ってください。

- g. LDAP の統合を実行する必要がある場合は、77 ページの「LDAP の統合」の手順を完了します。
 - h. クラスタ化システムを作成する場合は、78 ページの「WebCenter Sites クラスタのセットアップ(オプション)」の手順に従います。
 - i. CAS をクラスタ化する場合は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*の手順に従ってください。
 - j. CAS を再デプロイする必要がある場合は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*の手順に従ってください。
4. すべてのインストールが完了し、検証したら、業務目的に合わせて WebCenter Sites を設定します。手順については、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』および『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

このガイドで使用するパスおよびディレクトリ

名前	説明
<domain_home>	WebLogic ドメインへのパス。このパスはドメイン名を含みます。
<cs_install_dir>	WebCenter Sites がインストールされているディレクトリのパス。このパスには WebCenter Sites アプリケーションの名前は含まれません。
<wl_home>	WebLogic がインストールされているディレクトリのパス。このパスはそのディレクトリの名前を含みます。
<shared_dir>	指定されているシステム上の共有フォルダのパス。このパスは共有フォルダの名前を含みます。
<wl_home>/wlserver_10.x	このガイドで使用される WebLogic Server ディレクトリ。
<wl_home>/workshop_10.x	このガイドで使用される WebLogic Workshop ディレクトリ。
<deploy_dir>	WebCenter Sites のデプロイ先のディレクトリのパス。このパスはデプロイメント・ディレクトリの名前を含みます。

第 1 部 データベース

この部には、WebCenter Sites で使用されるデータベースについて簡単にまとめた章が含まれています。データベースの作成および構成の手順は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*で説明しています。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 2 章 「データベースのセットアップ」

第 2 章

データベースのセットアップ

WebCenter Sites は、WebCenter Sites 用に特別に構成したデータベースへのアクセスを必要とします。サポートされているデータベース（および他のサードパーティ・コンポーネント）のリストについては、*Oracle WebCenter Sites の動作保証マトリックス*を参照してください。

他の WebCenter Sites のサポートするソフトウェアをインストールする前に、次の手順を完了する必要があります。

1. データベース管理システムをインストールします。詳細は、製品ベンダーのドキュメントを参照してください。
2. WebCenter Sites 用のデータベースを作成および構成します。詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。データベース構成は、異なるアプリケーション・サーバーにわたって同一であることに注意してください。選択したデータベースを作成および構成するための適切な章を参照してください。

第 2 部 アプリケーション・サーバー

この部には、WebLogic Server のインストールおよび構成に関する情報が含まれています。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 3 章 「WebLogic Server のインストール」
- 第 4 章 「Web インストールのための WebLogic Server の構成」

第 3 章

WebLogic Server のインストール

この章には、WebCenter Sites Web アプリケーションをサポートおよびデプロイするための WebLogic Server のインストールに関する情報が含まれています。

この章は、次の項で構成されています。

- [起動および停止のコマンド](#)
- [WebLogic Server のインストール](#)

起動および停止のコマンド

この項では、WebLogic Server を管理するためにこのガイドで使用されるコマンドをリストします。

注意

UNIX システムを使用していることを前提とします。Windows ベースのインストールの場合、コマンドは .cmd または .bat の拡張子で終わります。

- 管理サーバーの起動 :

```
<domain_home>/startWebLogic.sh
```

- 管理サーバーの停止 :

```
<domain_home>/bin/stopWebLogic.sh
```

- ノード・マネージャの起動 :

```
<wl_home>/wlserver_10.x/server/bin/startNodeManager.sh
```

- 管理対象サーバーの起動 :

```
<domain_home>/bin/startManagedWebLogic.sh <managed_server_name>
http://<listening_address>:<admin_port>
```

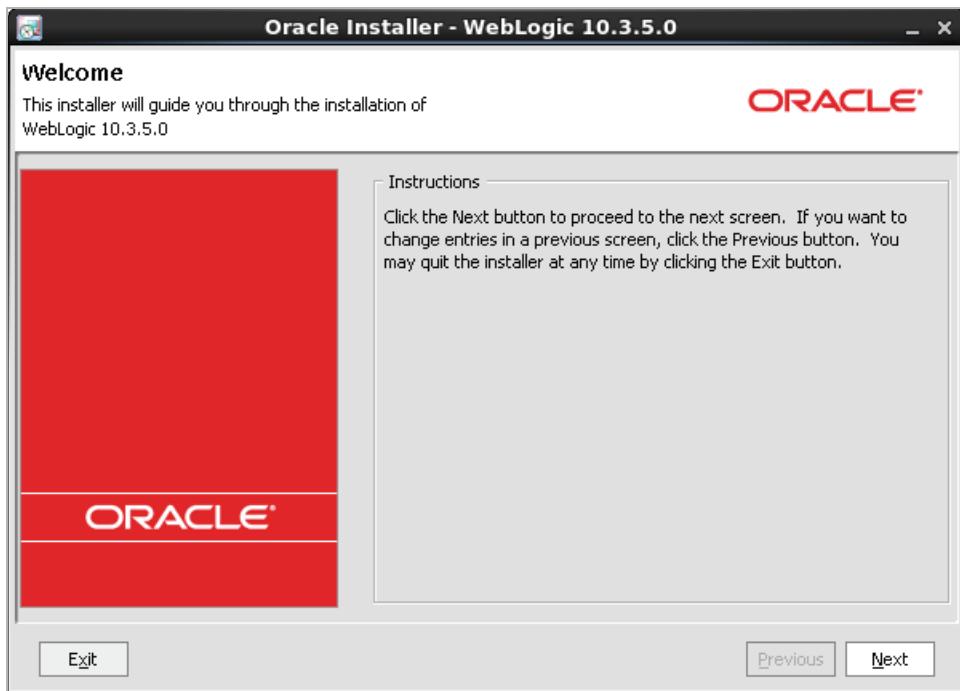
- 管理対象サーバーの停止 :

```
<domain_home>/bin/stopManagedWebLogic.sh <managed_server_name>
http://<listening_address>:<admin_port>
```

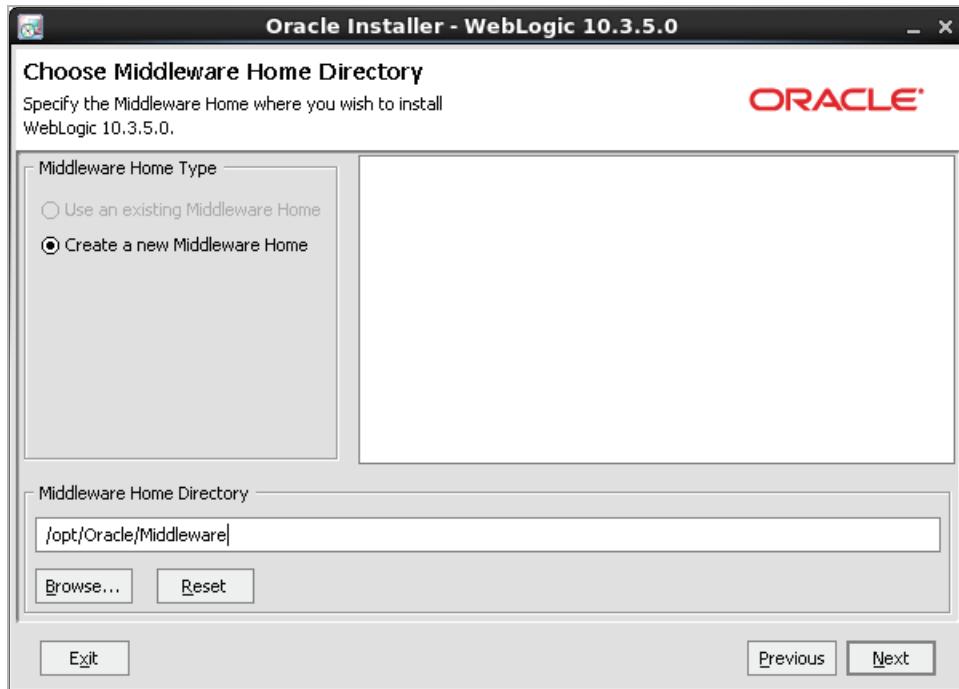
WebLogic Server のインストール

この項では、WebCenter Sites のインストールおよび実行に必要な Oracle WebLogic Application Server のインストールについてのみ説明します。インストール・プロセスおよびベスト・プラクティスに関する広範囲にわたるドキュメントは、Oracle WebLogic Web サイトのドキュメントを参照してください。

1. WebLogic Server インストーラを実行します (UNIX で DISPLAY 変数が設定されていることを確認してください)。
2. 「ようこそ」画面で「次へ」をクリックします。



3. 既存の WebLogic ホーム・ディレクトリを使用するか、**新しい WebLogic ホームを作成する**を選択してディレクトリを参照します。「次へ」をクリックします。



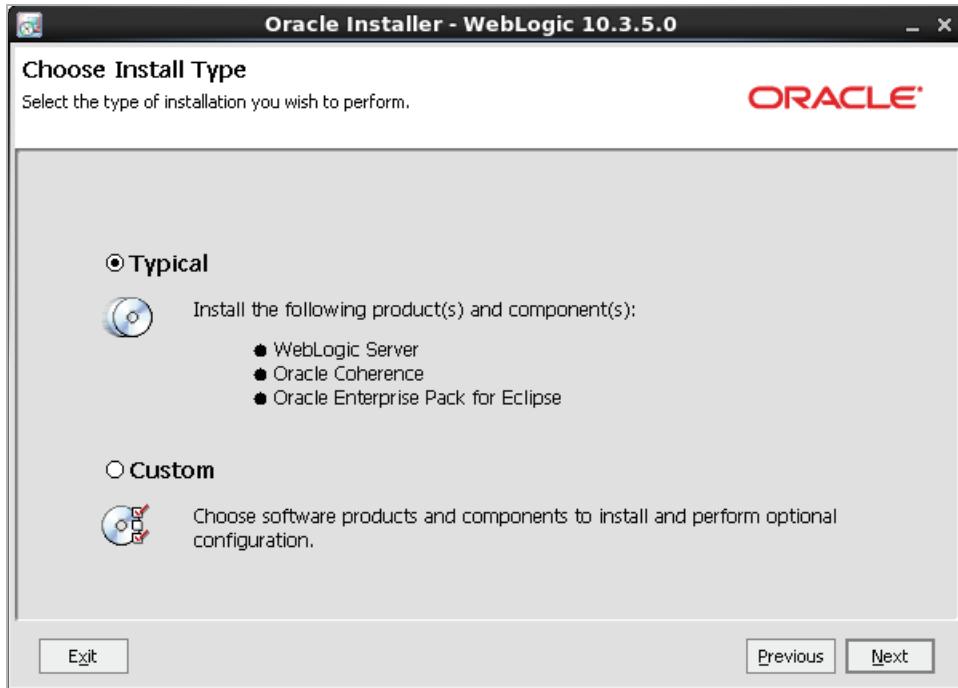
注意

このガイドでは、WebLogic ホーム・ディレクトリを `<wl_home>` と呼びます。

4. 「セキュリティ更新のための登録」画面で、適切な情報を入力し、「次へ」をクリックします。



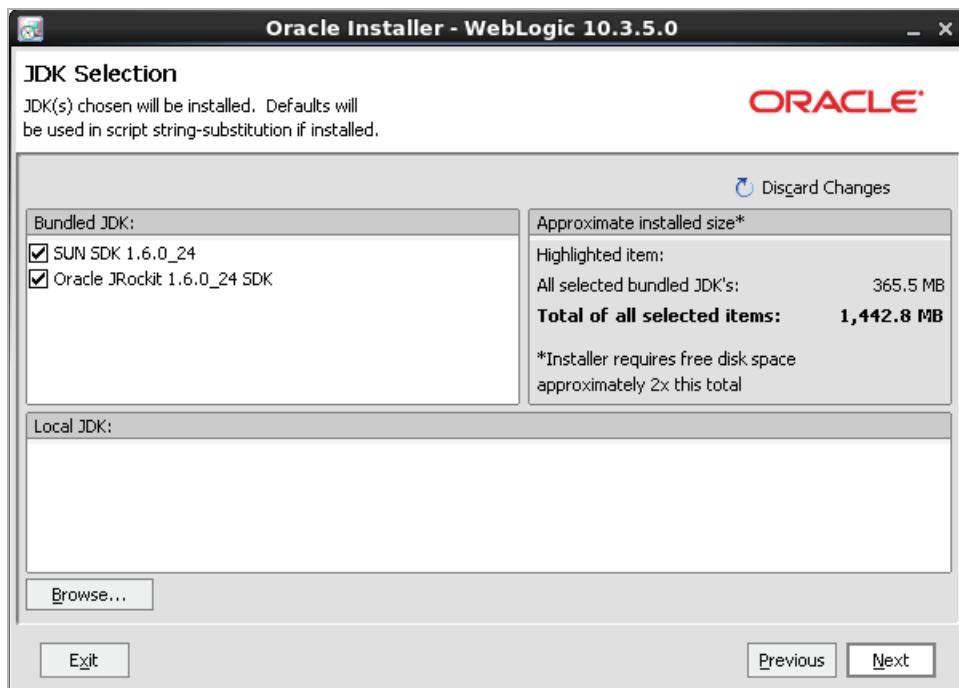
5. 「標準」インストール・タイプを選択し、「次へ」をクリックします。



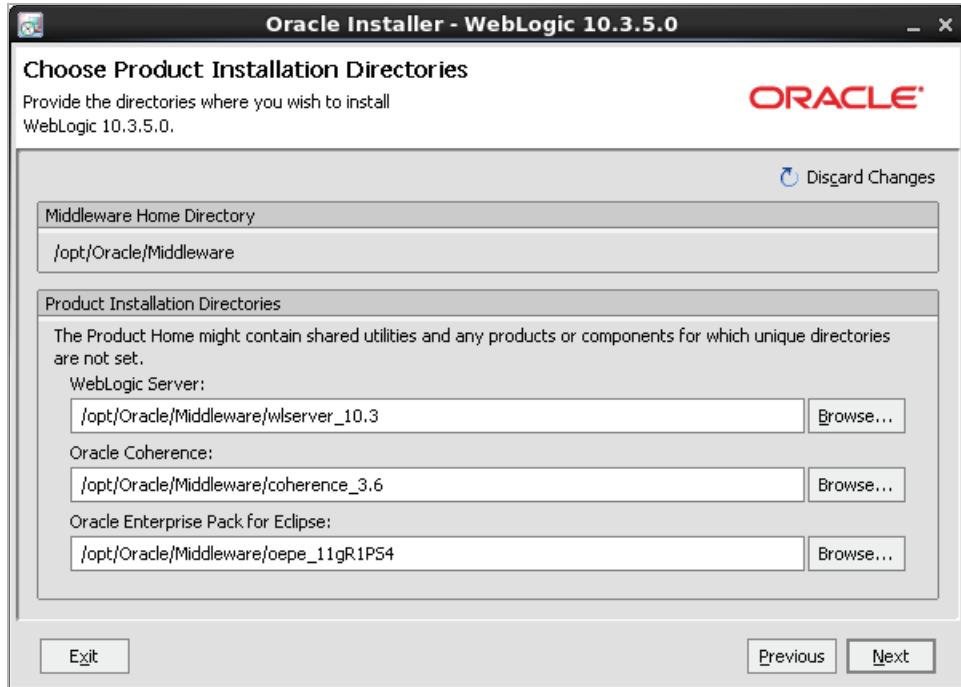
6. 「製品とコンポーネントの選択」画面で、必要なコンポーネントがデフォルトで選択されています。他のコンポーネントをインストールする場合は、そのチェック・ボックスを選択します。「次へ」をクリックします。



7. 「JDK の選択」画面で、両方の JDK を選択し、「次へ」をクリックします。



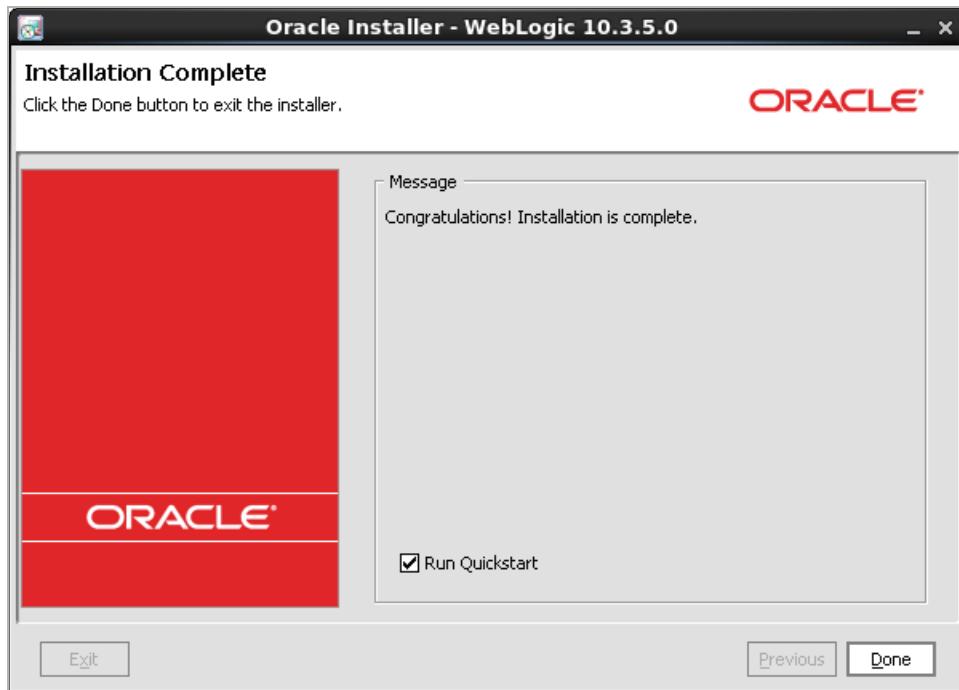
8. 「製品インストール・ディレクトリの選択」画面で、製品インストール・ディレクトリを確認し、「次へ」をクリックします。



9. 「インストールの概要」画面で「次へ」をクリックし、WebLogic のインストールを開始します。



10. インストールが開始されます。完了後にウィンドウを閉じます。



11. WebLogic ドメインを構成するには、[第4章「Web インストールのための WebLogic Server の構成」](#)に進みます。

第 4 章

Web インストールのための WebLogic Server の構成

この章には、WebCenter Sites Web アプリケーションをサポートおよびデプロイするための Oracle WebLogic Application Server の構成に関する情報が含まれています。

この章は、次の項で構成されています。

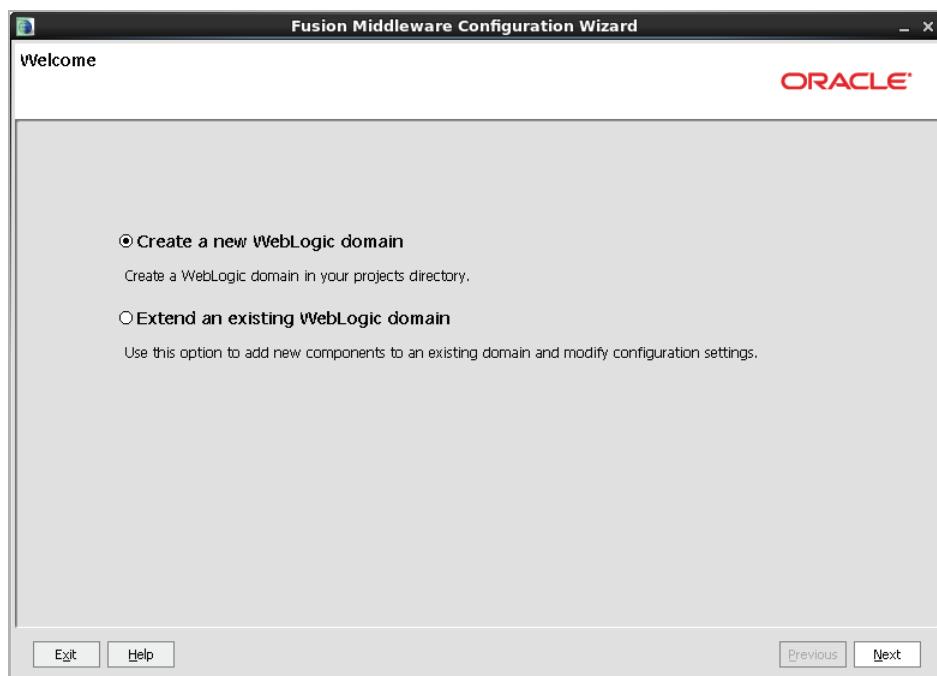
- [WebLogic Server ドメインの作成および構成](#)
- [環境変数の設定](#)
- [\(オプション\) ホスト名検証の無効化](#)
- [トンネリングの有効化](#)
- [Max PermGen パラメータの設定](#)
- [JAVA_OPTIONS の設定](#)
- [データ・ソースの作成および構成](#)
- [Web アプリケーションのデプロイ](#)

WebLogic Server ドメインの作成および構成

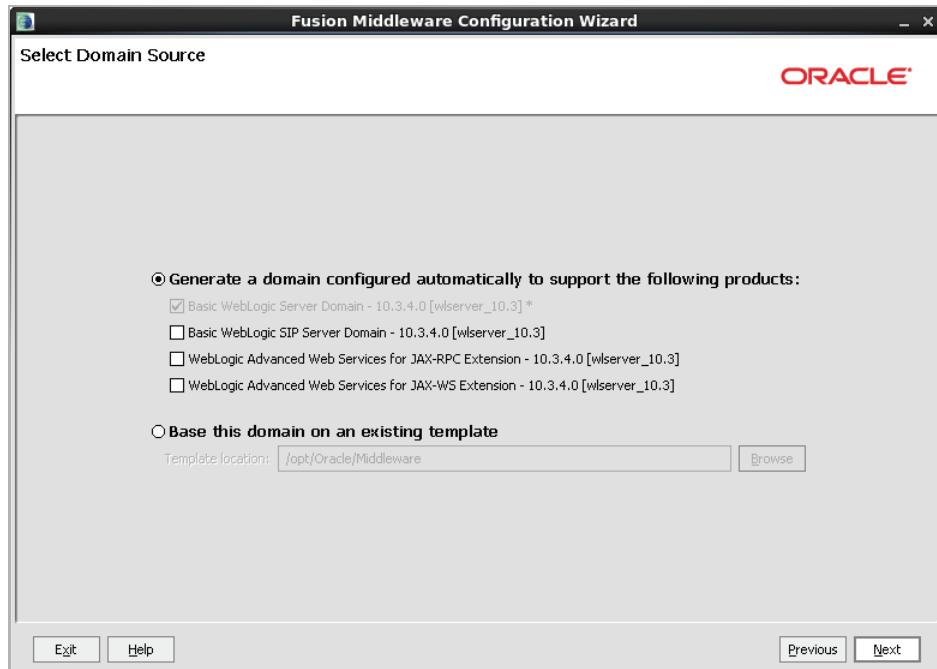
次の手順で、WebLogic ドメインを作成し、管理サーバーを追加してそのドメインを構成します。本番システムを作成する場合は、ドメインに管理対象サーバーも追加します。クラスタを作成する場合は、クラスタ・メンバーごとに管理対象サーバーを 1 つ追加します。

WebLogic Server ドメインを作成および構成するには：

1. <wl_home>/wlserver_10.x/common/bin ディレクトリに移動し、**config.sh** (Windows の場合は **.cmd**) を実行します。
2. 次のようにドメインを作成します。
 - a. 「ようこそ」画面で、「新しい WebLogic ドメインの作成」を選択し、「次へ」をクリックします。



- b. 「ドメイン・ソースの選択」画面で、WebLogic Server の基本ドメインをサポートするために、自動的に構成されたドメインを生成するを選択し、「次へ」をクリックします。



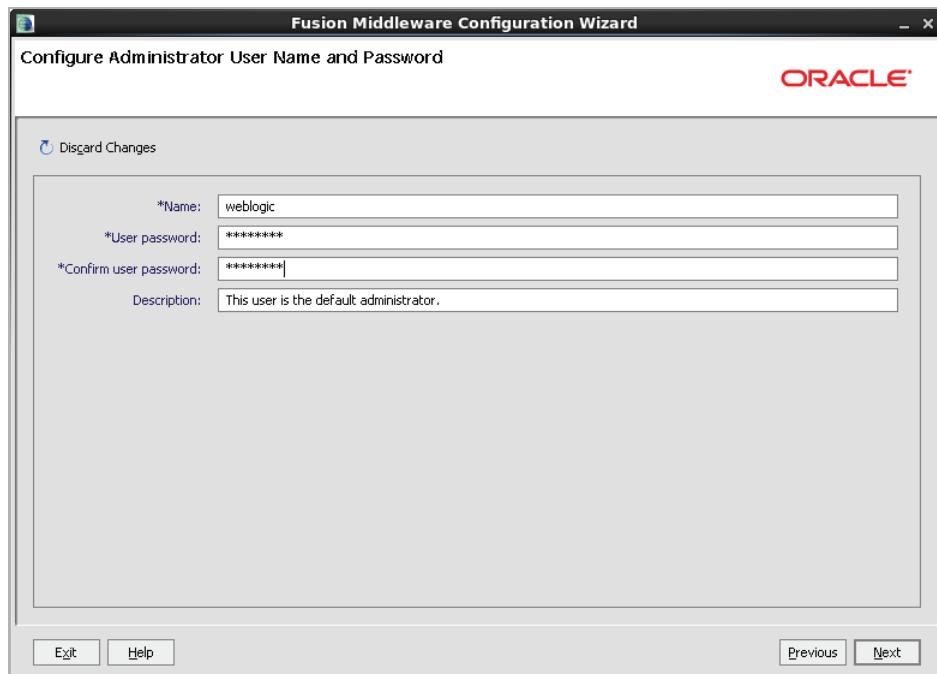
- c. 「ドメイン名と場所の指定」画面で、WebLogic ドメインの名前とパスを入力します。「次へ」をクリックします。



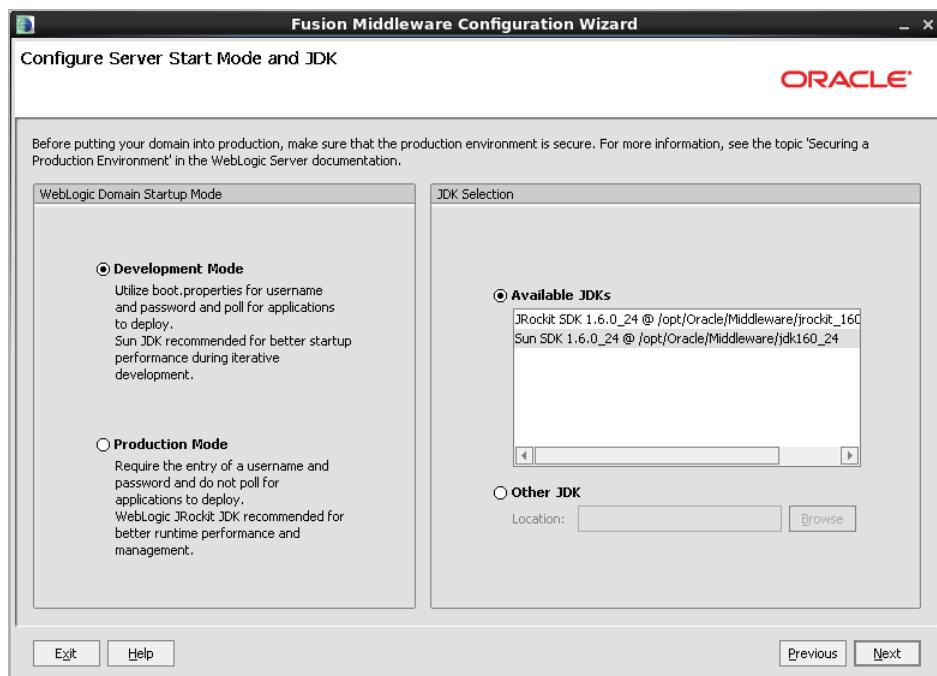
注意

このガイドでは、このドメインへのパスを `<domain_home>` と呼びます。

- d. 「管理者ユーザー名およびパスワードの構成」画面で、WebLogic ドメインのユーザー名とパスワードを入力します。「次へ」をクリックします。



- e. 「サーバーの起動モードおよびJDKの構成」画面で「開発モード」および目的のSDKを(WebLogic 提供のJDKリスト・ボックスで)選択します。本番環境の場合、このドメインは、このガイドで後から「本番モード」に変更されます(76ページのステップ E)。「次へ」をクリックします。

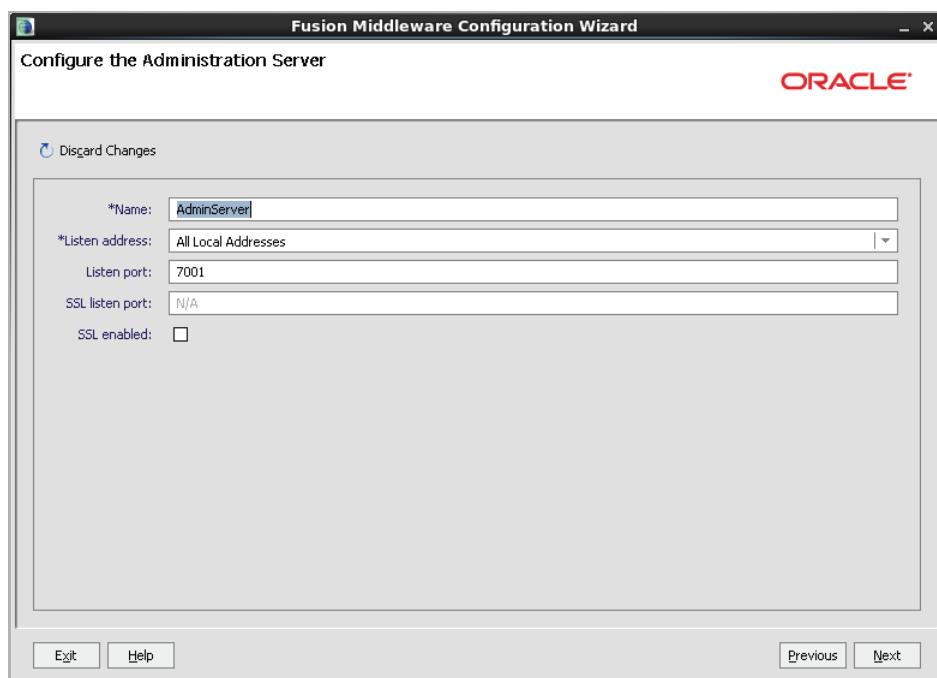


- f. 「オプション構成の選択」画面で、使用可能なすべてのオプションを選択し、「次へ」をクリックします。



3. 次のように管理サーバーを構成します。

- a. 管理サーバーの名前、リスニング・アドレス、およびポートを入力します。
- b. 「次へ」をクリックします。

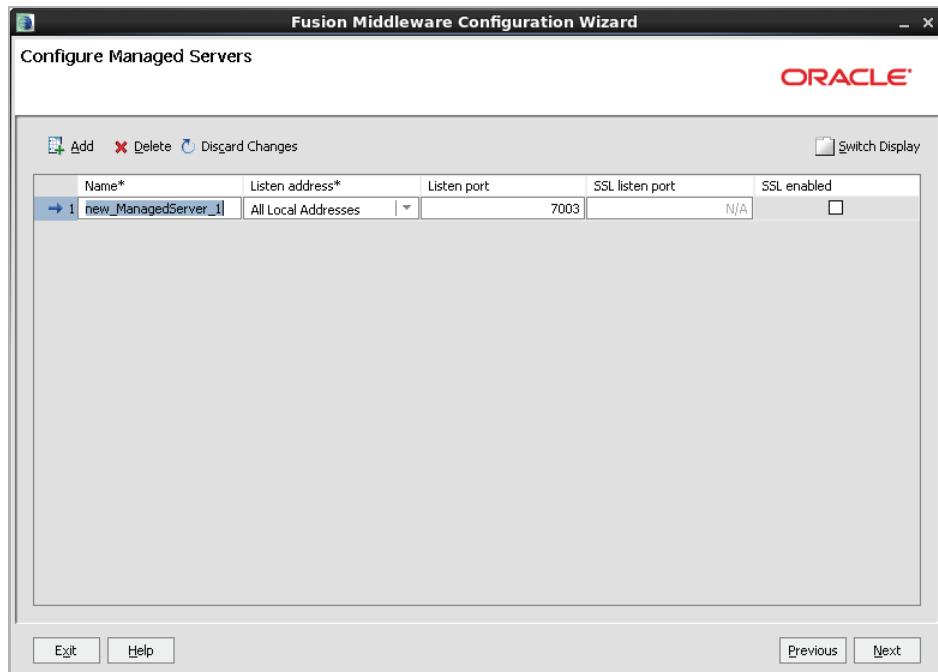
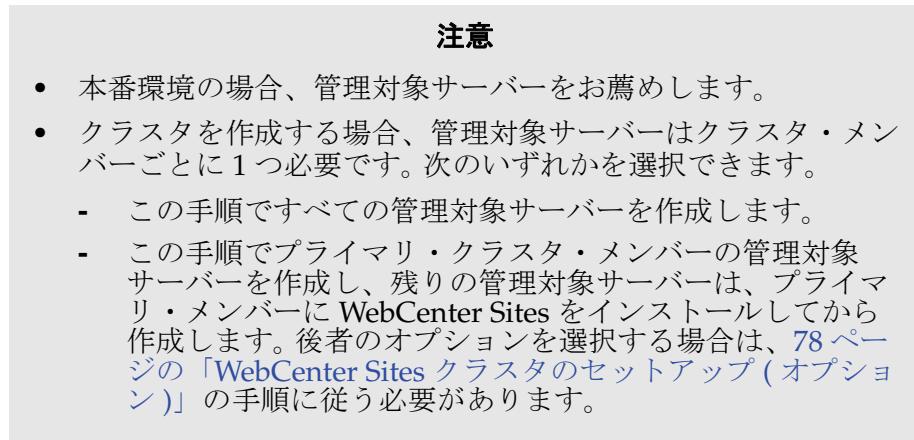


注意

このガイドでは、ここで入力した値を `<listening_address>` および `<admin_port>` と呼びます。

4. 次のように管理対象サーバーを追加します。

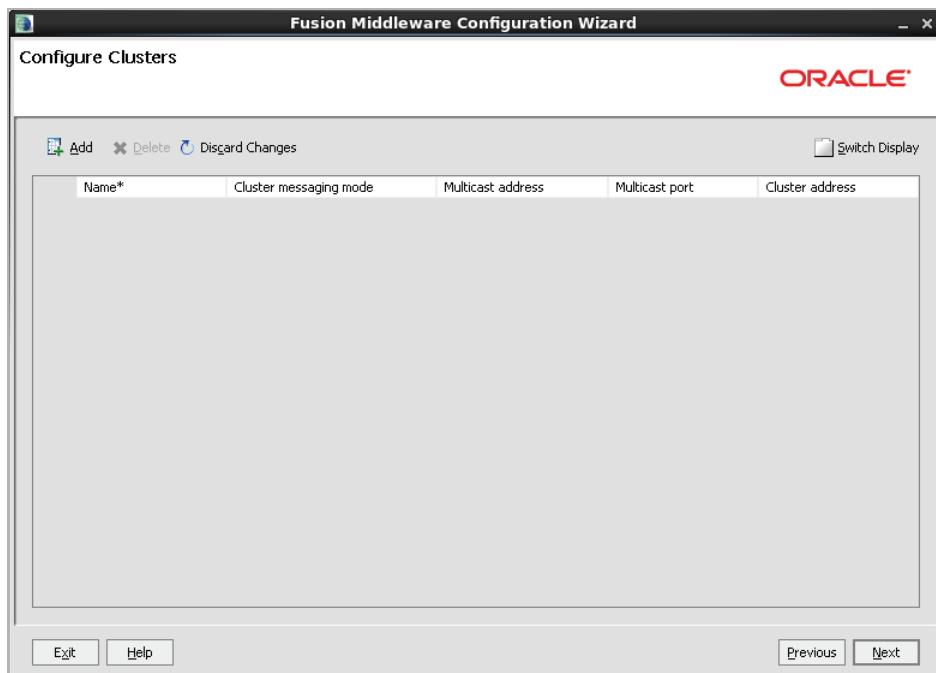
- a. 「追加」をクリックし、名前、リスニング・アドレス、およびポートを入力します。



- b. 「次へ」をクリックします。

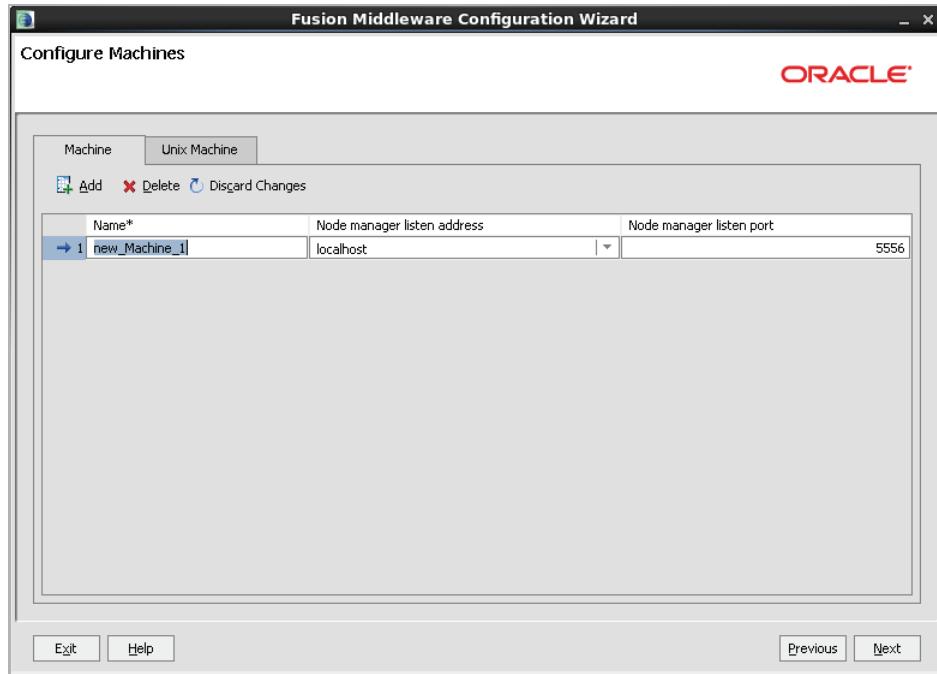
5. クラスタを作成しない場合は、「次へ」をクリックして [36 ページのステップ 6](#) に進みます。それ以外の場合は、次のようにクラスタを作成および構成します。

- a. 次のようにクラスタを作成します。
- 1) 「追加」をクリックします。
 - 2) クラスタの名前を入力します。
 - 3) 「マルチキャスト・ポート」フィールドに、管理サーバーのリスニング・ポートを入力します。
 - 4) 「次へ」をクリックします。



- b. 管理対象サーバーを、(管理対象サーバーをクリックして右矢印をクリックすることで) クラスタに追加します。「次へ」をクリックします。

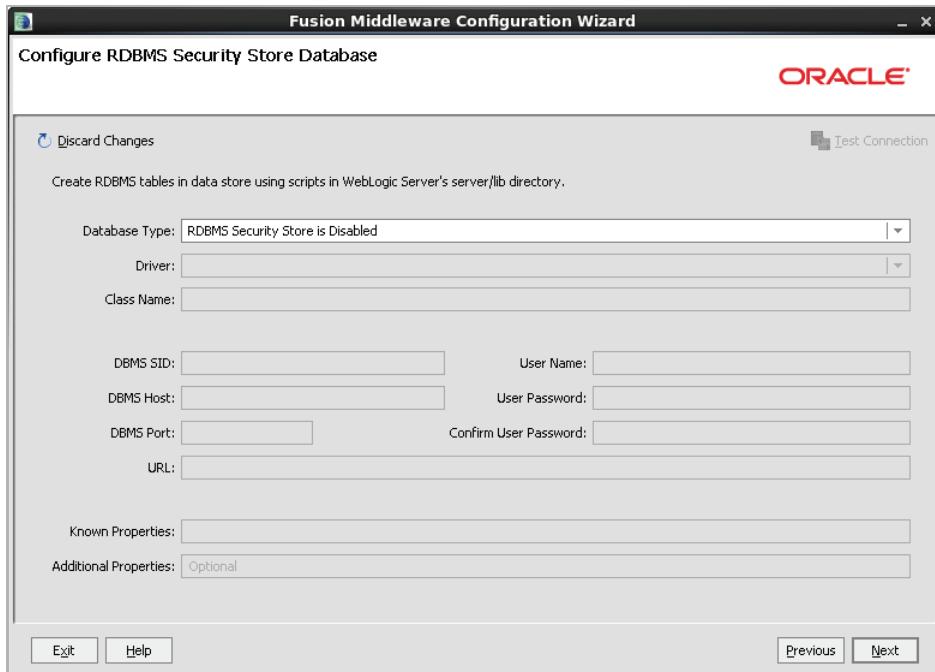
6. 「マシンの構成」画面で、ノード・マネージャを構成します。
- a. 「追加」をクリックし、名前およびリスニング・アドレスを入力します。
「次へ」をクリックします。



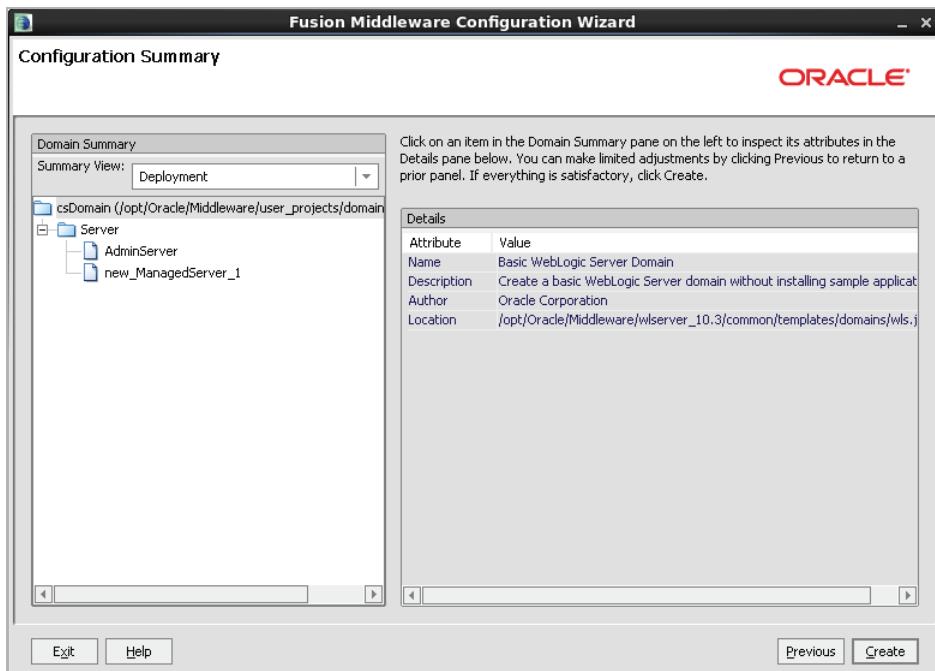
- b. 「サーバーのマシンへの割当」画面で、管理サーバーと管理対象サーバーの両方を、右矢印を使用してノード・マネージャに追加します。
「次へ」をクリックします。



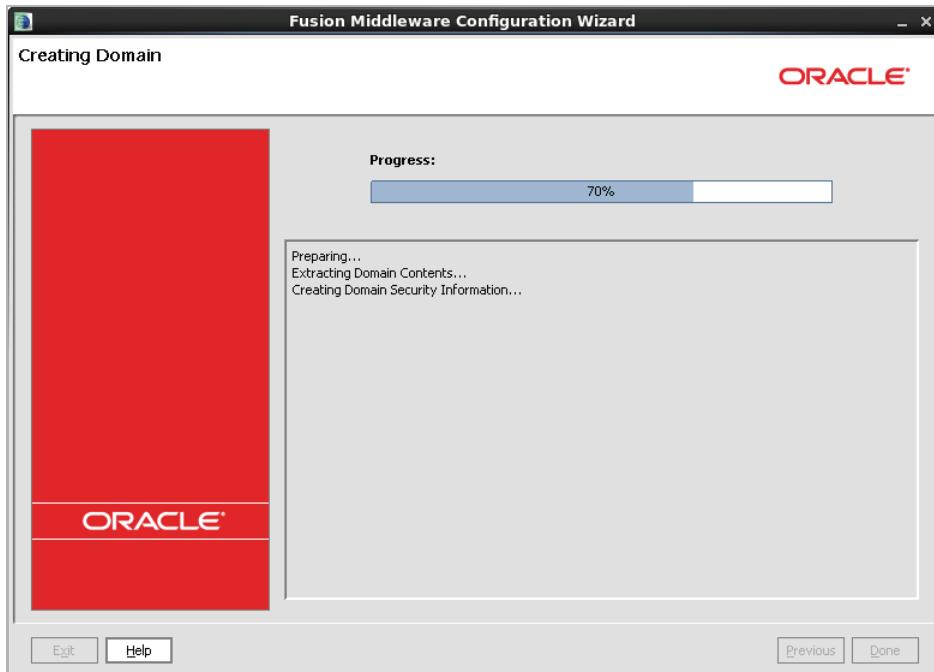
7. 「RDBMS セキュリティ・ストア・データベースの構成」画面で、「次へ」をクリックします。



8. ドメイン構成を確認し、「次へ」をクリックします。



9. ドメインのインストールが開始されます。インストールが完了したら、「完了」をクリックします。



10. 次の手順は次のとおりです。

- a. すべてのシステム（本番およびそれ以外）について、環境変数を設定し、すべてのサーバーが正しい JDK を使用するようにします。手順については、39 ページの「環境変数の設定」を参照してください。
- b. 非本番環境の場合は、ホスト名検証を無効化します。手順については、39 ページの「(オプション) ホスト名検証の無効化」を参照してください。
- c. WebCenter Sites がデプロイされるすべてのサーバーについて、コマンドライン・デプロイメントをサポートするために weblogic.Deployer または weblogic.Admin ユーティリティを使用してトンネリングを有効化します。手順については、41 ページの「トンネリングの有効化」を参照してください。
- d. Max PermGen パラメータの値を、最小値の 192MB に設定します。手順については、42 ページの「Max PermGen パラメータの設定」を参照してください。

環境変数の設定

環境変数を設定すると、各サーバーが正しい JDK を使用するようになります。

環境変数を設定するには：

1. 管理コンソールにログインします。
2. サーバーの環境変数を設定します。
 - a. ツリーの「環境」を開きます。
 - b. 「サーバー」をクリックします。
 - c. サーバー名をクリックします。
 - d. 「構成」タブをクリックします。
 - e. 「サーバーの起動」をクリックします。
 - f. 「Java ホーム」については、WebLogic JDK のパス (たとえば、<wl_home>/jdk160_24) を入力します。
 - g. 「Java ベンダー」については、Sun と入力します。
 - h. 「保存」をクリックします。
3. 「変更の承諾」をクリックします。
4. システム内のサーバーごとに [ステップ 2-3](#) を繰り返します。
5. 次の手順は、非本番環境に対してホスト名検証を無効化することです。次の項の手順に従ってください。

(オプション) ホスト名検証の無効化

非本番環境では、ホスト名検証を無効化することができます。この項では、コマンドラインと管理コンソールの両方からそれを実行する方法について説明します。

注意

ホスト名検証を無効化した後は、次を実行します。

1. トンネリングを有効化して、コマンドラインから制御するデプロイメント用に Web アプリケーションを準備します。手順については、[41 ページの「トンネリングの有効化」](#) を参照してください。
2. データ・ソースを作成します。手順については、[44 ページの「データ・ソースの作成および構成」](#) を参照してください。

コマンドライン

domain_home/bin にある **startWebLogic.sh** および **startManagedWebLogic.sh** の両方のスクリプト (Windows では .cmd) について、最初の大きなコメント・ブロックの後に次の行を挿入してそのスクリプトを編集します。

```
JAVA_OPTIONS="${JAVA_OPTIONS} -Dweblogic.security.SSL.ignoreHostnameVerification=true"
```

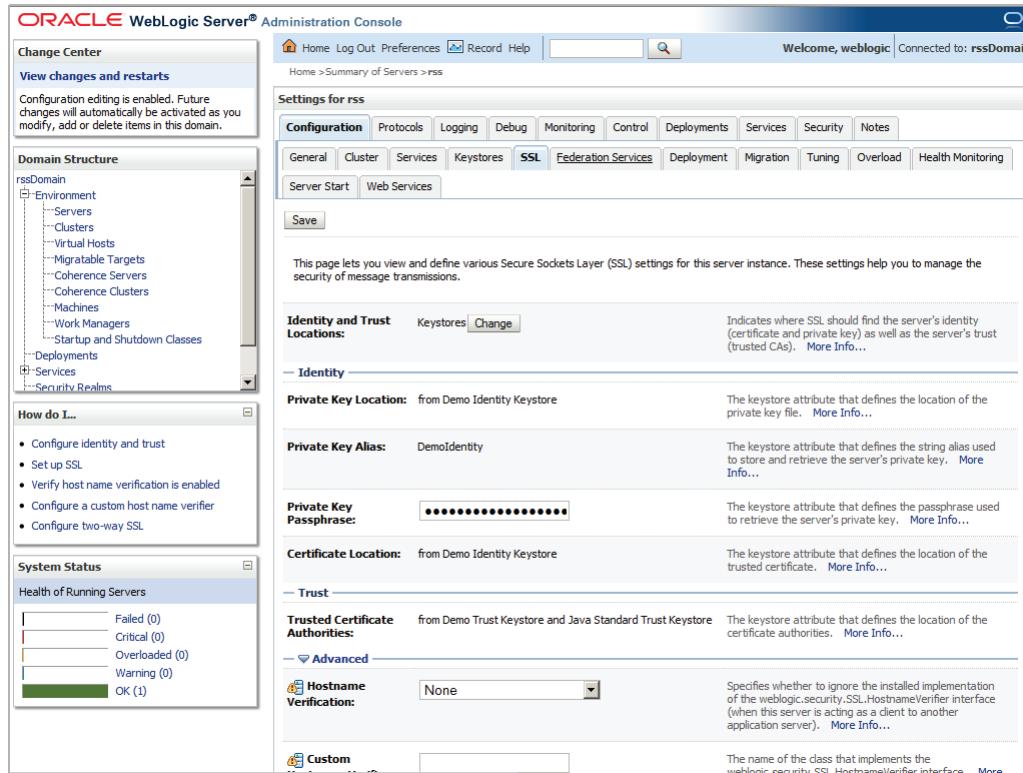
管理コンソール

注意

場合によっては、ドメインの構成方法に応じて、「チェンジ・センター」のロックと解放を使用して構成を変更する必要があります。

1. 管理サーバーを起動します。
2. <domain_home> ディレクトリに移動し、startWebLogic.sh (Windows の場合は .cmd) を実行します。
3. 管理サーバーを起動した後、Web ブラウザを開き、次の場所にある WebLogic Server 管理コンソールにログインします。
`http://<listening_address>:<admin_port>/console`
4. 画面の左側にあるツリーで「環境」を開きます。
5. 「サーバー」をクリックします。
6. リストされているサーバーごとに次のように実行します。
 - a. サーバー名をクリックします。
 - b. 「構成」タブをクリックします。
 - c. 「SSL」をクリックします。
 - d. 「詳細」をクリックします。

- e. 「ホスト名の検証」ドロップダウン・メニューで「なし」を選択します。



- f. 「保存」をクリックします。
7. 再起動するように求められた場合はそのようにします。

トンネリングの有効化

注意

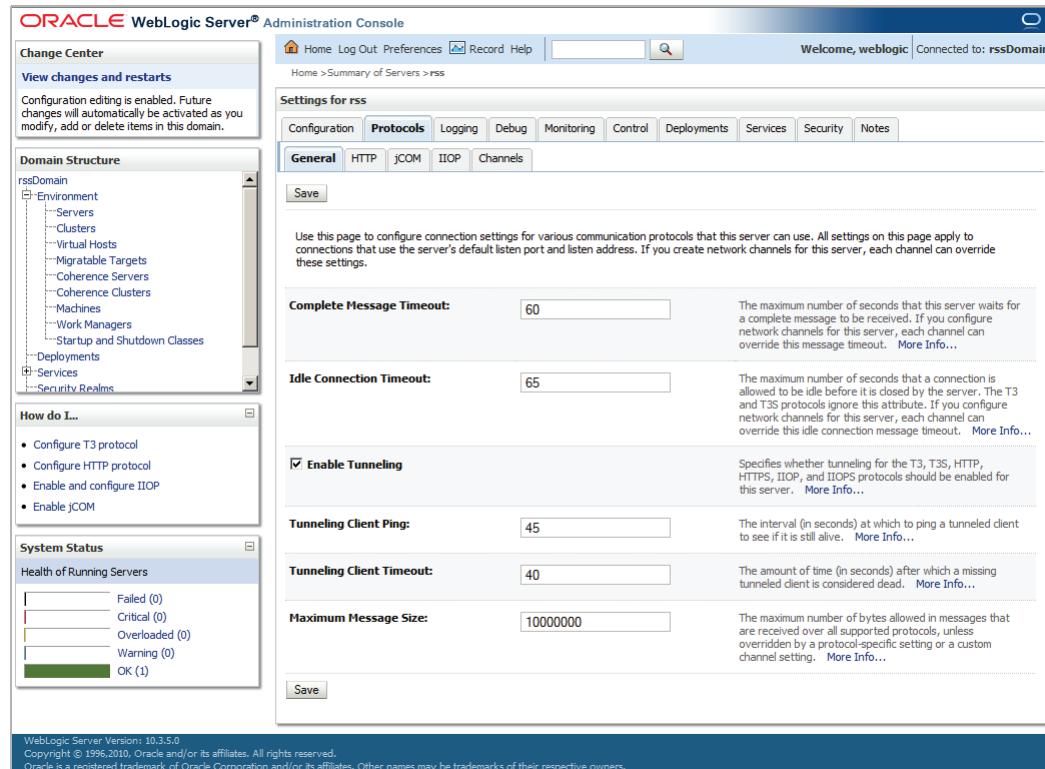
コマンドラインを使用してWebCenter Sitesをデプロイする場合は、この項の手順を完了します。

weblogic.Deployer または weblogic.Admin ユーティリティを使用してコマンドを実行するには、各サーバー上でトンネリングを有効化する必要があります。この項では、コマンドラインから制御するサーバーに対してトンネリングを有効化する方法について説明します。

トンネリングを有効化するには

1. 管理コンソールにログインします。
2. 左側にある「環境」を開きます。
3. 「サーバー」をクリックします。
4. 管理サーバーおよび各管理対象サーバーに対して次のように実行します。

- a. サーバー名をクリックします。
- b. 「プロトコル」タブをクリックします。
- c. 「一般」をクリックします。
- d. 「トンネリングの有効化」チェック・ボックスをオンにします。



- e. 「保存」をクリックします。
5. 「変更のアクティブ化」をクリックします。
6. 次の手順は、データ・ソースを作成することです。次の項の手順に従ってください。

Max PermGen パラメータの設定

Max PermGen パラメータは、最小値の 192MB に設定する必要があります。それを実行するには、<domain_home>/bin ディレクトリにある setDomainEnv.sh (Windows の場合は .cmd) ファイルを編集します。使用している Java のバージョンに応じて、このパラメータを次のいずれかに変更します。

- `MEM_PERM_SIZE_32BIT="XX:PermSize=<desired_permgen_size>"` または
- `MEM_PERM_SIZE_64BIT="XX:PermSize=<desired_permgen_size>"`

JAVA_OPTIONS の設定

<domain_home>/bin/startWebLogic.sh を編集し、JAVA_OPTIONS を追加して次のようにします。

- Cache ディレクトリの場所を指定します。たとえば、コメント・ブロックの後に次の行を追加します。
-Djava.io.tmpdir=<domain_home>/servers/<managed_server_name>/tmp
- 次の行を追加することで UTF ファイル・エンコーディングを指定します。
-Dfile.encoding=UTF-8
- 次の行を追加することで Ehcache シャットダウン・フックを有効化します。
-Dnet.sf.ehcache.enableShutdownHook=true
- 次の行を追加することで IPv4 スタックを指定します。
-Djava.net.preferIPv4Stack=true

前述の変更を行った後、JAVA_OPTIONS は次のようになります。

```
JAVA_OPTIONS="-Djava.io.tmpdir=<path_to_jav_io_temp_dir>
-Dfile.encoding=UTF-8
-Dnet.sf.ehcache.enableShutdownHook=true
-Djava.net.preferIPv4Stack=true ${JAVA_OPTIONS}"
```

<domain_home>/bin/startWebLogic.sh を編集し、<cs_install_dir>/bin を CLASSPATH に追加します。たとえば、次のように指定します。

```
CLASSPATH=<cs_install_dir>/bin $CLASSPATH
```

注意

クラスパスおよびライブラリ・パスが適切に設定されていないと、CAS Web アプリケーションは起動せず、WebCenter Sites の Admin インタフェースの「管理」タブの「システム・ツール」ノードは機能が制限されます。

WebCenter Sites の Contributor インタフェースが適切にロードされるようになるには、<domain_home>/bin ディレクトリの下の setDomainEnv.sh ファイルを編集し、WebCenter Sites によって使用される commons-lang-2.4.jar ファイルを次のように PRE_CLASSPATH に追加します。

```
PRE_CLASSPATH=<webapplication_stage_directory>/
<webcenter_sites_webapplication>/WEB-INF/lib/commons-lang-
2.4.jar:$PRE_CLASSPATH
```

データ・ソースの作成および構成

この項では、WebLogic Server 管理コンソールを使用して、任意のサポートされているデータベースのデータ・ソースを作成する方法について説明します。この項では、管理サーバーがすでに起動していると想定しています。次の 2 つの基本手順を完了する必要があります。

- A. データ・ソースの作成
- B. 接続プール・サイズの構成

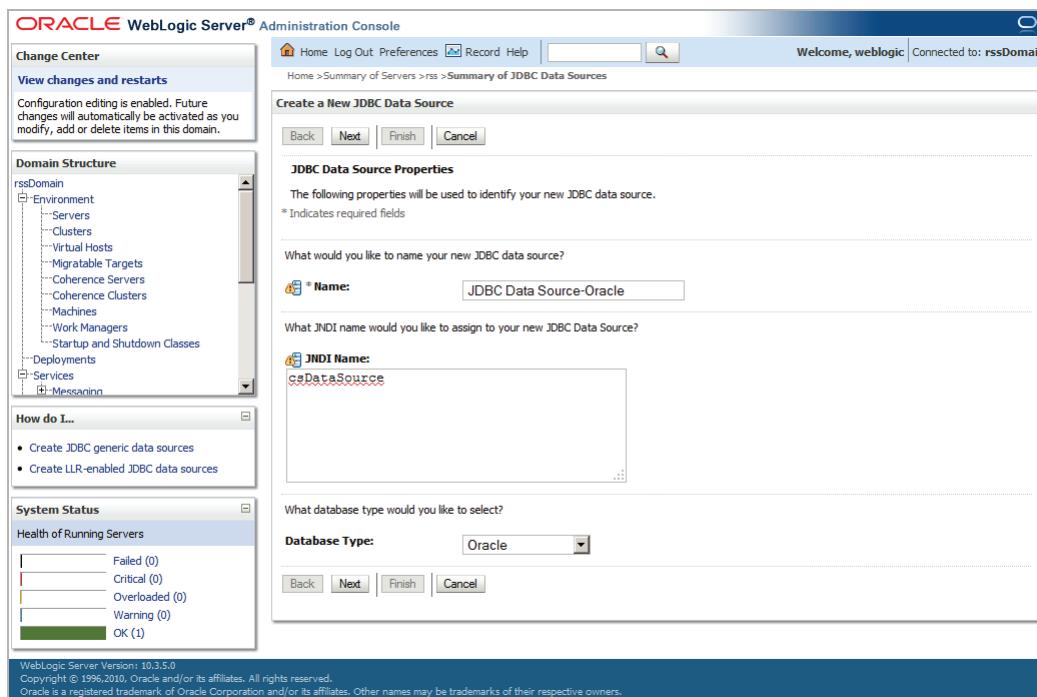
注意

Oracle データベースを使用していて、2,000 文字を超えるテキスト属性を必要としている場合、cc.bigtext を CLOB に設定することが必要になります。WebCenter Sites のインストーラを実行するときに、(64 ページの「インストールのオプション」で説明しているように)cc.bigtext を CLOB に設定します。

A. データ・ソースの作成

1. WebLogic Server 管理コンソールにログインします。
2. 左側のツリーで次のように実行します。
 - a. 「サービス」を開きます。
 - b. 「データ・ソース」をクリックします。
3. 「新規」をクリックします。

4. 「新しい JDBC データ・ソースの作成」画面で次の値を入力します。
- データ・ソースの名前。
 - JNDI 名については <datasource_name>。
 - データベースのタイプとドライバのペア。推奨される選択は次のとおりです。
 - MS SQL Server/Oracle の MS SQL Server ドライバ (タイプ 4) バージョン: 7.0 以降
 - Oracle/Oracle のインスタンス接続用ドライバ (Thin)、バージョン: 9.0.1 以降
 - JDBC および SQLJ 用 IBM DB2 ドライバ (タイプ 4)、バージョン 8.x 以降。<domain_home>/bin ディレクトリにある setDomainEnv.sh ファイルを編集することで、db2jcc.jar および db2cc_license_cu.jar の場所を PRE_CLASSPATH に追加します。

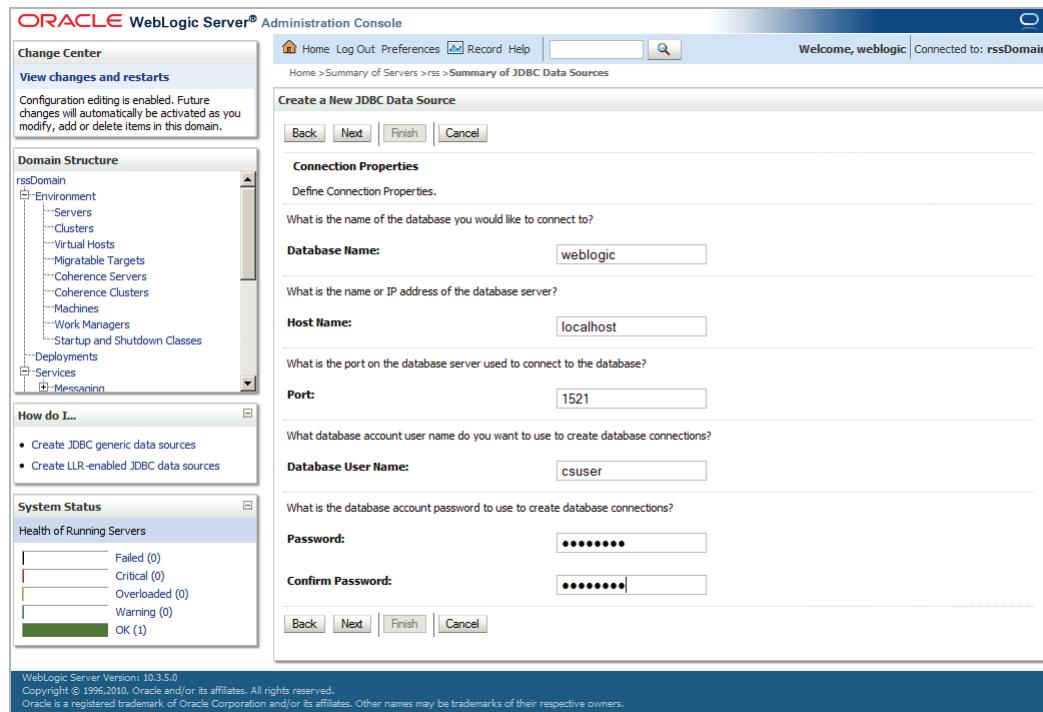


注意

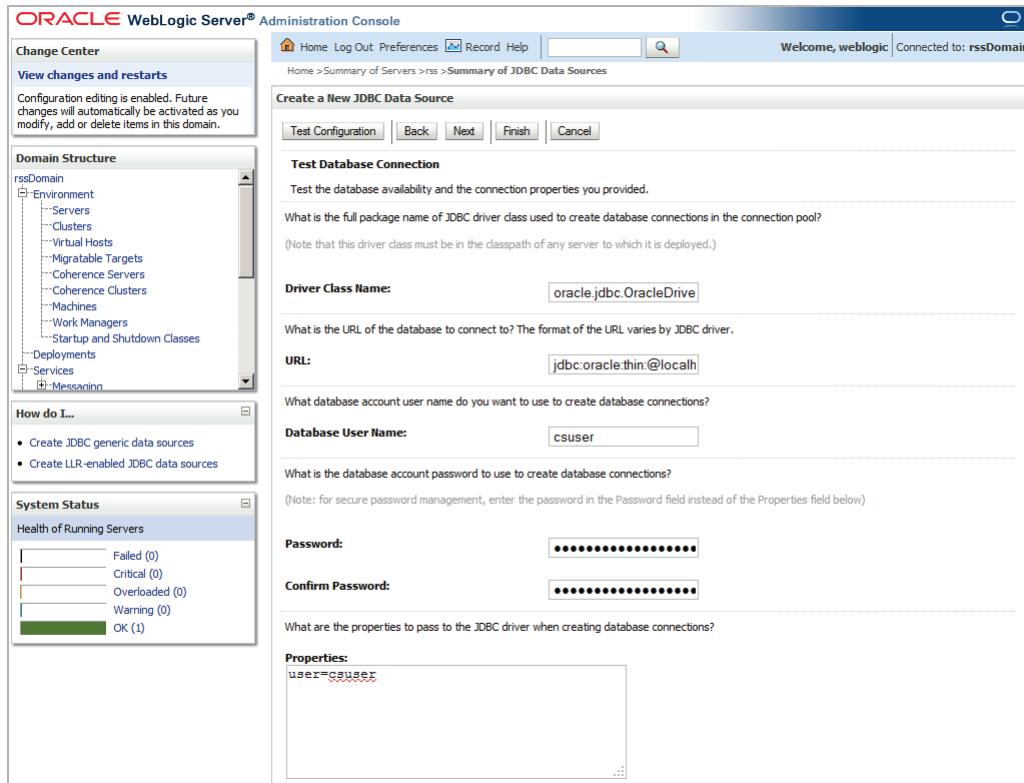
db2jcc4.jar ファイルはサポートされていません。db2jcc4.jar を使用するとインストールに失敗します。

- 「次へ」をクリックします。
- 後続の画面で「次へ」をクリックします。

7. 「接続プロパティ」画面では、データベース名、データベース・サーバーのホスト名、ポート、ユーザー名およびパスワードを入力します。「次へ」をクリックします。



8. データ・ソース情報が正しいことを確認し、「構成のテスト」をクリックします。これにより、データ・ソースがテストされます。テストが失敗した場合は、データ・ソース情報を確認し、再試行してください。テストに成功した場合は、「次へ」をクリックします。



9. インストールに適用するサーバーを選択し、「終了」をクリックします。

10. 「変更のアクティブ化」をクリックします。

B. 接続プール・サイズの構成

デフォルト値では、接続プールに含めることができる物理接続は最大で 15 個のみです。この値を増やす必要があります。

1. 左側のツリーで次のように実行します。
 - a. 「サービス」を開きます。
 - b. 「データ・ソース」をクリックします。
2. 新しく作成したデータ・ソースをクリックします。
3. 「構成」タブで「接続プール」をクリックします。

4. 「接続数の初期値」に **10** を入力し、「最大接続数」に **100** を入力します。

The screenshot shows the Oracle WebLogic Server Administration Console. The left sidebar shows the 'Domain Structure' for 'rssDomain' with various sub-nodes like Environment, Servers, Clusters, etc. The main panel is titled 'Settings for JDBC Data Source-Oracle' under the 'Connection Pool' tab. The 'URL' is set to 'jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:weblogic'. The 'Driver Class Name' is 'oracle.jdbc.OracleDriver'. In the 'Properties' section, 'user' is set to 'sauser'. Under 'System Properties', 'Initial Capacity' is 10 and 'Maximum Capacity' is 100. The 'Statement Cache Type' is set to 'LRU'.

5. 「保存」をクリックします。
6. 「変更の承認」をクリックします。
7. 次の手順は次のいずれかになります。
- Apache または IIS Web サーバーと統合する場合は、[第5章「Web サーバーのインストールおよび構成」](#)の手順に従います。
 - WebCenter Sites をインストールするには[第6章「Oracle WebCenter Sites のインストールおよび構成」](#)の手順に従います。

Web アプリケーションのデプロイ

この項では、コマンドライン (`weblogic.Deployer`) または管理コンソールのいずれかを使用して、WebLogic Server に Web アプリケーションをデプロイする方法について説明します。次の手順は、WebCenter Sites および CAS インストール (第 6 章) の途中で参照することになります。

注意

WebCenter Sites インストーラには、CAS のインストールも含まれています。デフォルトでは、CAS はプライマリ・クラスタ・メンバーにインストールされます。

コマンドラインを使用した Web アプリケーションのデプロイ

この項では、コマンドラインを使用した WebLogic への Web アプリケーションのデプロイについて説明します。

A. `weblogic.Deployer` 用の環境のセットアップ

注意

`weblogic.Deployer` コマンド・セットを使用するには、その環境を構成する必要があります。この環境は、WebCenter Sites のインストールには使用しないでください。

1. `JAVA_HOME` 環境変数を `<wl_home>` にある WebLogic JDK に設定します。
2. `<wl_home>/wlserver_10.x/server/bin` にある `setWLSEnv.sh`/`cmd` スクリプトから読み込むことにより、環境のセットアップを完了します。これは、UNIX 上で `. setWLSEnv.sh` または `source setWLSEnv.sh` を使用して実行します。

B. Web アプリケーションのデプロイ

注意

WebCenter Sites Web アプリケーションをデプロイする前に、`WEB-INF/classes` にある `commons-logging.properties` ファイルの最初のプロパティが `priority=1` であることを確認します。

1. 管理サーバーを起動します。
2. 本番環境にデプロイしている場合、ノード・マネージャおよび管理対象サーバーを起動します。

3. Web アプリケーションをデプロイします。

注意

デプロイメント名は、アプリケーションのデプロイ先のディレクトリの名前、または WebCenter Sites のインストール時にアプリケーションに指定された名前です。

```
java weblogic.Deployer -adminurl http://
<listening_address>:<admin_port> -user <domain_login>
-pwd <domain_password> -name <deployment_name> -
targets AdminServer -nostage -deploy
<deployment_dir>/<deployment_name>
```

deployment_dir の例:

```
/opt/Oracle/Middleware/user_projects/domains/csDomain/
applications
```

deployment_name の例:

```
ContentServer
```

4. アプリケーションはデプロイされると自動的に起動します。このアプリケーションは次のコマンドを使用して停止、起動またはアンデプロイできます。

- アプリケーションの停止:

```
java weblogic.Deployer -adminurl http://
<listening_address>:<admin_port> -user <domain_login> -
-pwd <domain_password> -name <deployment_name> -stop
```

- アプリケーションの起動:

```
java weblogic.Deployer -adminurl http://
<listening_address>:<admin_port> -user <domain_login> -
-pwd <domain_password> -start -name <deployment_name>
```

- アプリケーションのアンデプロイ:

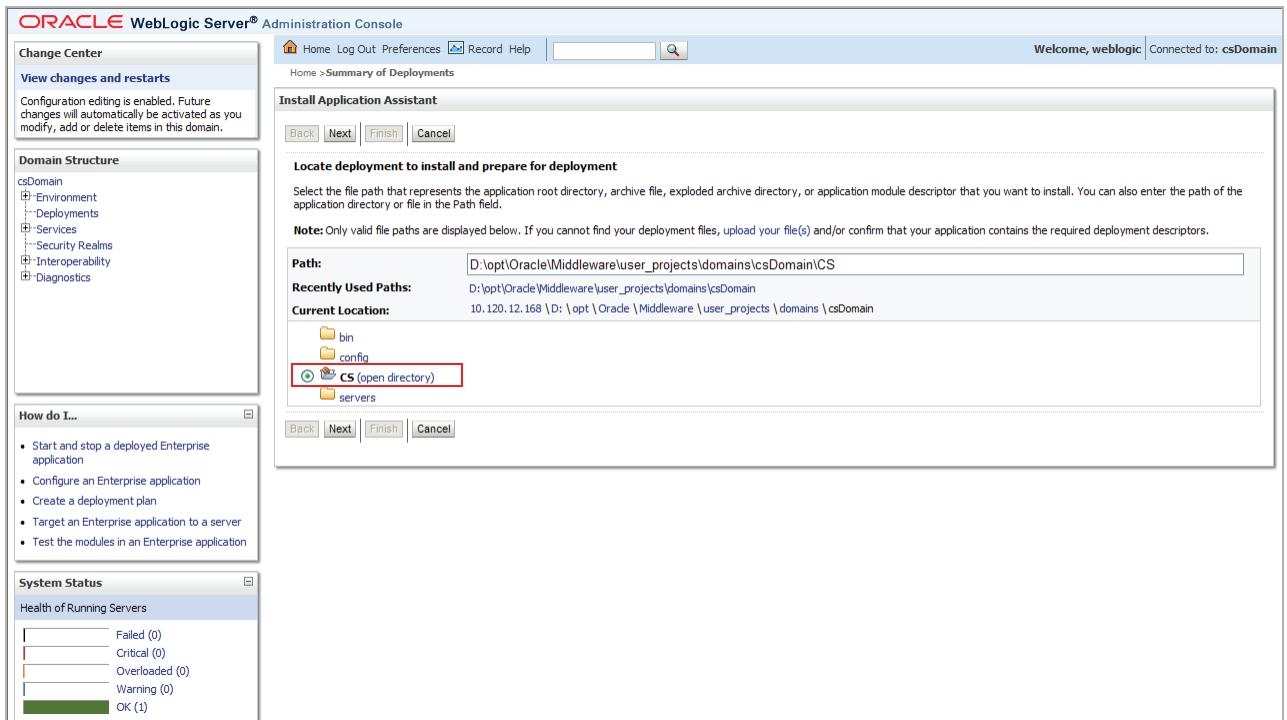
```
java weblogic.Deployer -adminurl http://
<listening_address>:<admin_port> -user <domain_login> -
-pwd <domain_password> -name <deployment_name> -
undeploy
```

管理コンソールを使用した Web アプリケーションのデプロイ

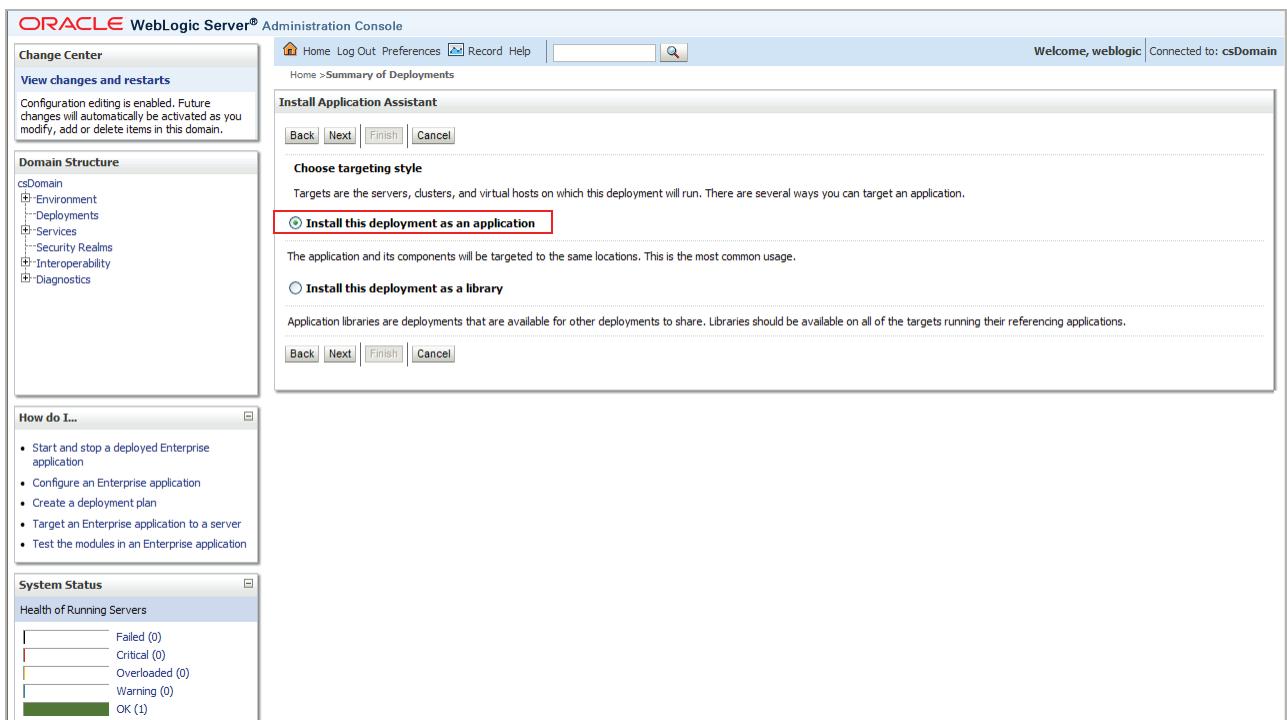
この項では、管理コンソールを使用した WebLogic への Web アプリケーションのデプロイについて説明します。

1. 管理インターフェースにログインします。
2. 「ドメイン構造」パネルで、「デプロイメント」をクリックします。
3. 「インストール」ボタンをクリックします。必要に応じて、現在の場所を WebCenter Sites インストーラの手動デプロイメント画面で指定されているパスに変更します。この画面の詳細は、[65 ページの「ステップ 4」](#)を参照してください。

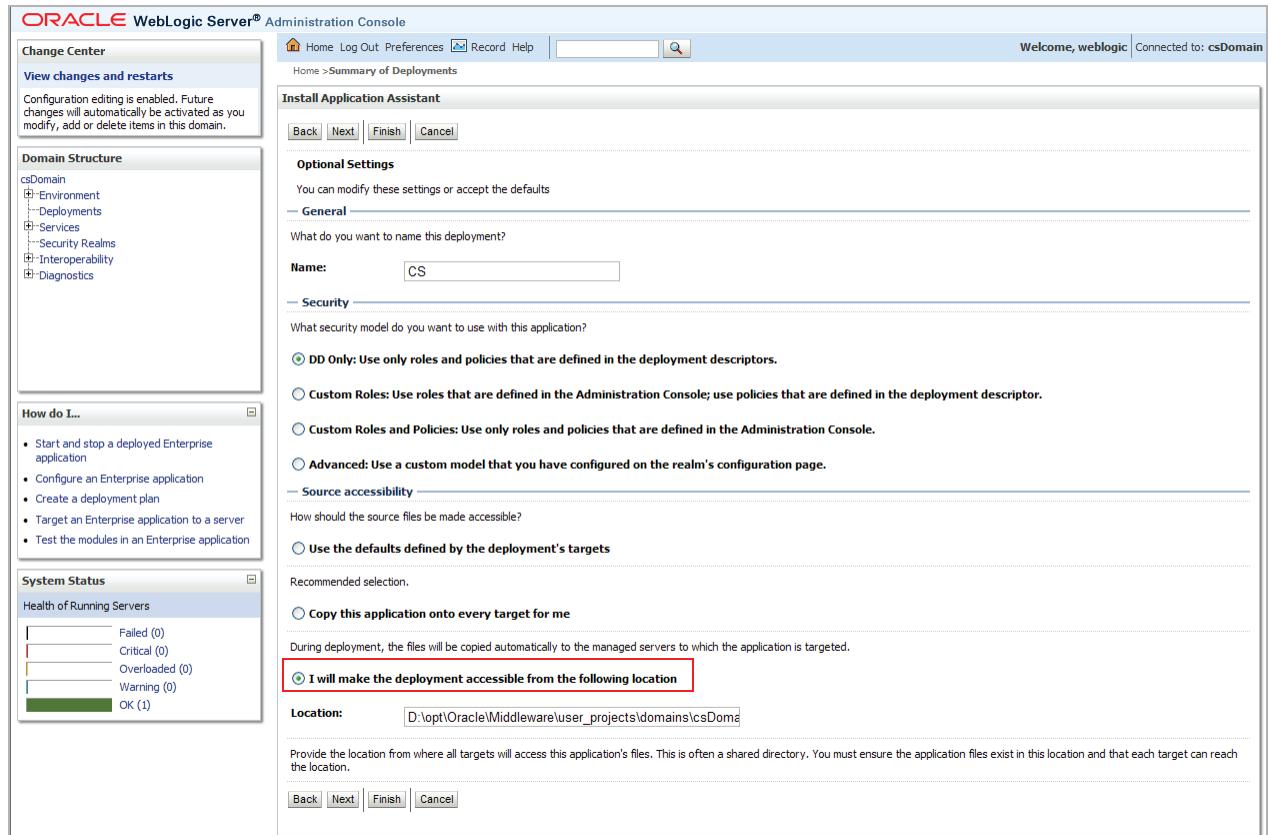
4. 「cs (open directory)」を選択し、「次へ」をクリックします。



5. 「このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする」を選択し、「次へ」をクリックします。



6. 「ソースのアクセス可能性」セクションで、「デプロイメントを次の場所からアクセス可能にする」を選択します。



7. 「次へ」をクリックし、「終了」をクリックします。
8. WebCenter Sites アプリケーションのデプロイと同様に、CAS アプリケーションをデプロイする場合は、この手順のステップ 1-7 を実行します (WebCenter Sites アプリケーション用の値を CAS アプリケーション用の値に置き換えます)。

第 3 部

Web サーバー

この章では、Apache および IIS Web サーバーのインストールおよび構成方法について説明します。どちらも、WebCenter Sites のインストールにおけるオプションのコンポーネントです。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 5 章 「Web サーバーのインストールおよび構成」

第 5 章

Web サーバーのインストールおよび構成

この章では、Apache Web サーバーまたは IIS Web サーバーのいずれかと WebLogic Server を統合するためのガイドラインを提供します。Web サーバーとの統合はオプションです。

この章は、次の項で構成されています。

- [Apache 2.2.x プラグインのインストールおよび構成](#)
- [IIS 7.0 以降用の IIS プラグインのインストールおよび構成](#)

Apache 2.2.x プラグインのインストールおよび構成

この項では、Apache 2.2.x をインストールして WebLogic Server アプリケーション・サーバーと統合する方法について説明します。Apache 2.2.x を WebLogic と統合するには、`mod_wl_22.so` プラグインを使用します。

Apache をインストールおよび構成するには：

1. Apache 2.2.x HTTP サーバーをインストールします。
2. `mod_so.c` が有効化されていることを確認します。`<apache_home>/bin/apachectl -l` を実行します。出力されたリストに `mod_so.c` がない場合、`-enable-module=so` オプションを指定して Apache を再ビルドする必要があります。
3. `<wl_home>/wlserver_10.x/server/plugin/<os_type>/<os_version>` にある `mod_wl_22.so` ファイルを `<apache_home>/modules` にコピーすることで、Apache Web サーバーを WebLogic と統合します。
4. `<apache_home>/conf` ディレクトリの下にある `httpd.conf` ファイルを編集します。
 - a. 次のものを `LoadModules` セクションに追加します。

```
LoadModule weblogic_module modules/mod_wl_22.so
```
 - b. `httpd.conf` ファイルの Section 3 の前に次の行を追加します。
 - 非クラスタ環境の場合：

```
<IfModule mod_weblogic.c>
    WebLogicHost <listening_address>
    WebLogicPort <listen_port>
</IfModule>
```
 - クラスタ環境の場合：

```
<IfModule mod_weblogic.c>
    WebLogicCluster <listening_address1>:<listen_port1>,
    <listening_address2>:<listen_port2></IfModule>
```
 - c. 最後の `Location` タグの後に、たとえば次のものを追加します。

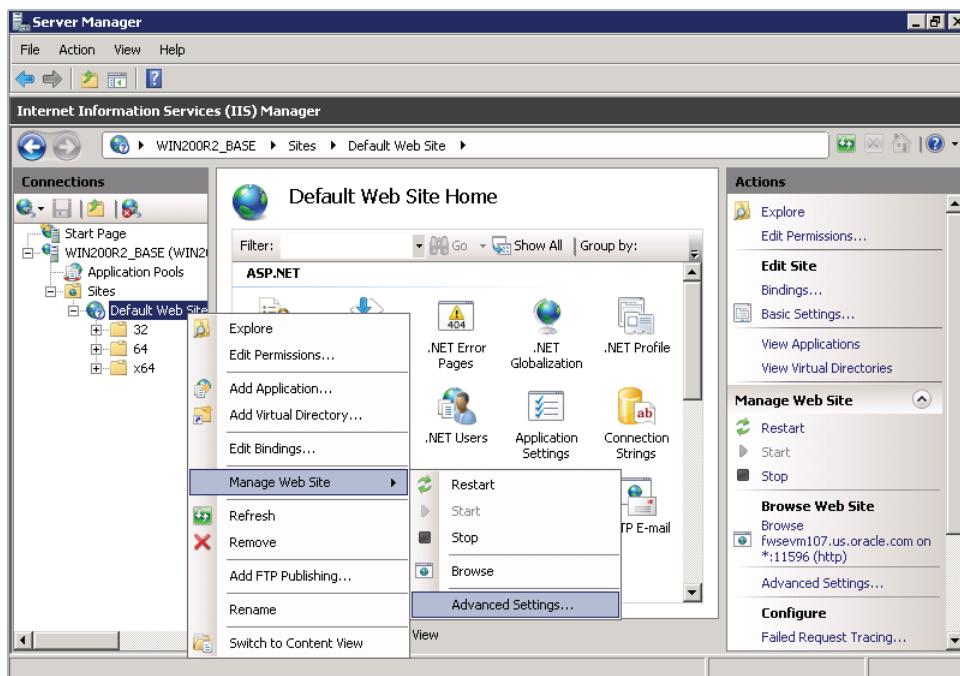
```
<Location /cs>SetHandler weblogic-handler</Location>
<Location /cas>SetHandler weblogic-handler</Location>
```
5. `<Apache_home>/conf/httpd.conf` ファイルの構文を次のコマンドで検証します。
`<Apache_home>/bin/apachectl -t`
6. これで、WebCenter Sites をインストールする準備が整いました。手順については、[第6章 「Oracle WebCenter Sites のインストールおよび構成」](#) を参照してください。

IIS 7.0 以降用の IIS プラグインのインストールおよび構成

この項は、IIS バージョン 7.0 以降用の IIS プラグインのインストールおよび構成の手順について説明します。

IIS 7.0 以降用の IIS プラグインをインストールおよび構成するには：

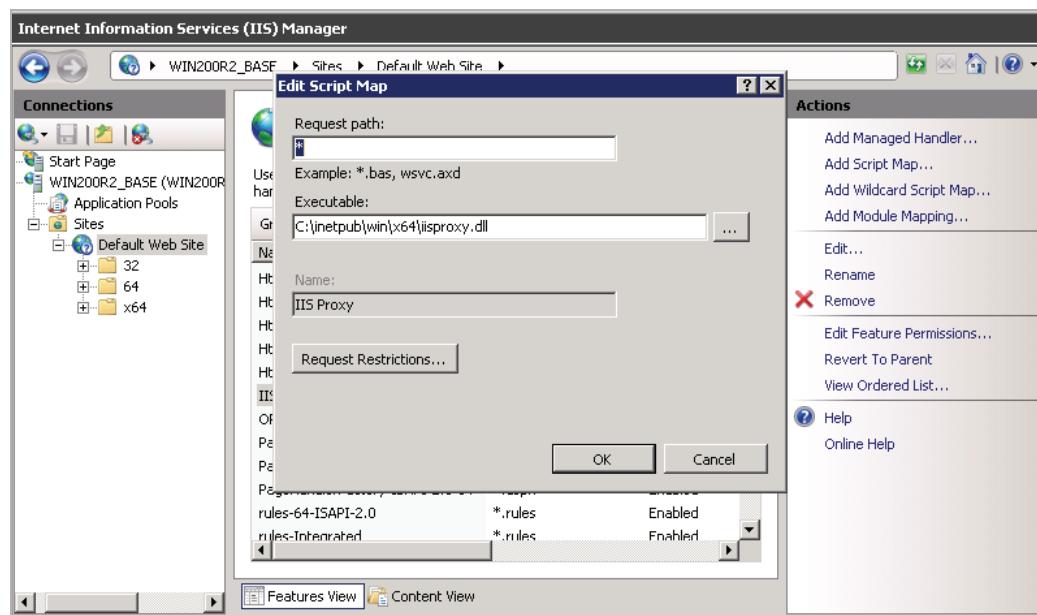
1. IIS 7.0/7.5 がマシンにインストールされていない場合は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。
2. <WL_Home>/wlserver_10.3/server/plugin/ ディレクトリに移動し、適切な OS バージョンおよびタイプのプラグインのフォルダを、IIS をインストールしたサーバー (<IIS_plugin_dir> ディレクトリと呼ぶ) にコピーします。次に例を示します。
C:\inetpub\win\x64
3. IIS マネージャにアクセスします。「Connections」ナビゲーション・ペインで <ルート・サーバー> → 「Sites」の順に開きます。
 - a. 「Default Web Site」ノードを右クリックし、「Manage Web Site」→ 「Advanced Settings」の順に選択します。



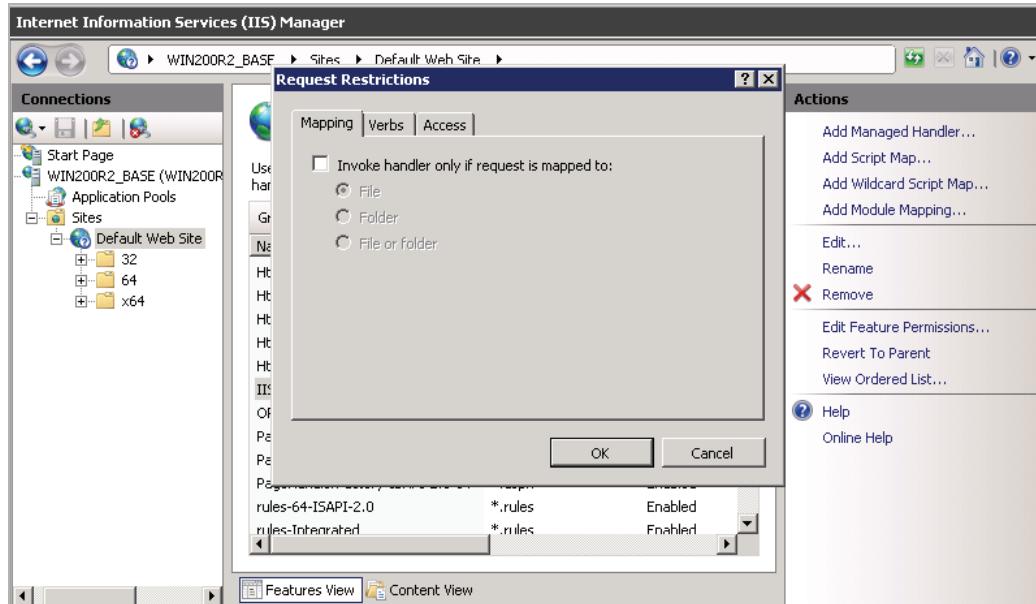
- b. 「Advanced Settings」ウィンドウで「Physical Path」フィールドの値 ([ステップ 2 の](#)) <IIS_plugin_dir> ディレクトリに変更します。たとえば、C:\inetpub\win\x64 です。「OK」をクリックします。
4. 「Default Web Site Home」画面で、「ISAPI Filters」をダブルクリックします。
 - a. 「ISAPI Filters」画面の任意の場所を右クリックし、コンテキスト・メニューから「Add」をクリックします。

「Add ISAPI Filter」 ウィンドウが開きます。

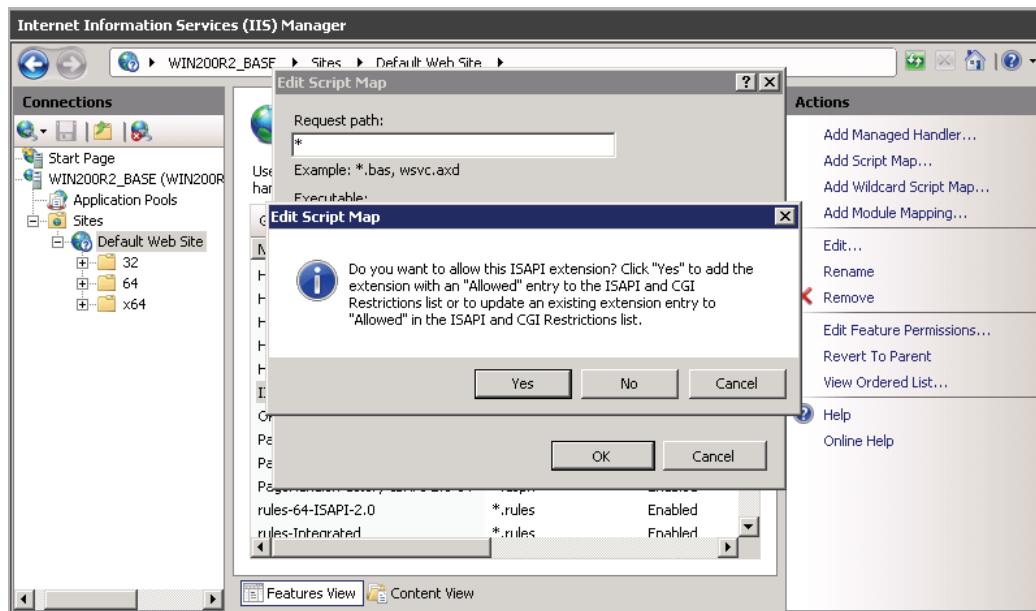
- b.** 次のフィールドに、使用システムに適した情報を入力します。たとえば、次のように指定します。
- **Filter name:** wlforward
 - **Executable:** C:\inetpub\win\x64\iisforward.dll
- c.** 「OK」 をクリックします。
5. 「Default Web Site」 をクリックし、「Default Web Site Home」 画面に戻ります。「Default Web Site Home」 画面で、「Handler Mappings」 をダブルクリックします。
- a.** 「Handler Mappings」 画面で、任意の場所を右クリックし、コンテキスト・メニューから「Add Script Map」 を選択します。
- 「Add Script Map」 ウィンドウが開きます。
- b.** 次のフィールドに、使用システムに適した情報を入力します。たとえば、次のように指定します。
- **Requested Path:** *
 - **Executable:** C:\inetpub\win\x64\iisproxy.dll
 - **Name:** IISProxy



- c. 「Requested Restrictions」をクリックします。「Request Restrictions」ウィンドウで、「Invoker handler」マッピング・オプションの選択を解除します(選択されている場合)。



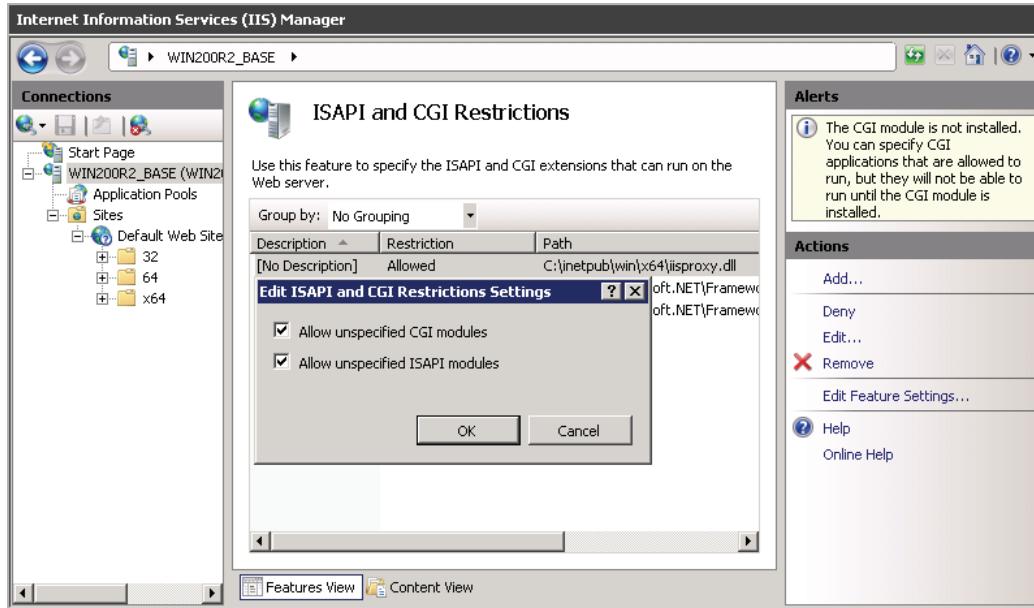
- d. 「Yes」をクリックします。



6. <ルート・サーバー>ノードをクリックし、「IIS Home」画面にアクセスして、「ISAPI and CGI Restrictions」をダブルクリックします。

- a. 「ISAPI and CGI Restrictions」画面で、任意の場所を右クリックし、コンテキスト・メニューから「Edit Feature Settings」を選択します。

- b. 「Edit ISAPI and CGI Restrictions Settings」 ウィンドウで、「Allow unspecified CGI modules」 オプションおよび「Allow unspecified ISAPI modules」 オプションの両方を選択します。



- c. 「OK」 をクリックします。

7. 「Physical Path」 フォルダ (ステップ 2 の <IIS_plugin_dir> ディレクトリ) で、iisproxy.ini という名前のファイルを作成し、使用システムに適した情報を入力します。

- 非クラスタ環境の場合は、次の例を使用します。

```
WebLogicHost=<hostname>WebLogicPort=<port>ConnectRetrySecs=5
WLForwardPath=/<cs_context_root>, /<cas_context_root>
```

- クラスタ環境の場合は、次の例を使用します。

```
WebLogicCluster=<member1_hostname>:<member1_port>,<member2_hostname>:<member2_port>,<membern_hostname>:<membern_port>
ConnectRetrySecs=5ConnectTimeoutSecs=25WLForwardPath=/
<cs_context_root>, /<cas_context_root>
```

これらのパラメータの詳細は、ベンダーのドキュメントを参照してください。

8. IIS サーバーおよびデフォルトの Web サイトを起動します。

第 4 部

Oracle WebCenter Sites

この部では、WebCenter Sites のインストール方法について説明します。この部は、次の章で構成されています。

- 第 6 章 「Oracle WebCenter Sites のインストールおよび構成」

第 6 章

Oracle WebCenter Sites のインストールおよび構成

この章では、WebCenter Sites を WebLogic Server にインストールし、選択したサポートされているデータベースに接続するためのガイドラインについて説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [WebCenter Sites のインストールの概要](#)
- [Web アプリケーションとしての WebCenter Sites のインストール](#)
- [インストール後の手順](#)
- [WebCenter Sites クラスタのセットアップ \(オプション\)](#)
- [業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ](#)

WebCenter Sites のインストールの概要

9 ページの「[インストールのクイック・リファレンス](#)」の手順 I–IV の 1. までを完了し、提供されているインストーラを使用して WebCenter Sites をインストールします。インストール・プロセスは、2 つのステージで構成されています。

- 最初のステージでは、インストーラによって必要な構成情報が収集され、ファイル構造がインストールされます。最初のステージの終わりに、WebCenter Sites アプリケーションをデプロイするように求めるインストール・アクション・ウィンドウがインストーラによって表示されます。サイレント・インストールでは、これらの手順がコマンドラインに表示されます。これらの手順には、WebCenter Sites アプリケーションのデプロイが含まれています。

最初のステージが失敗した場合は、インストーラで前に戻って構成オプション（データベース・タイプを除く）を変更し、インストールを再試行できます。

注意

インストール時に指定したデータベースのタイプを変更する場合は、インストール済の WebCenter Sites ファイル構造を削除して、WebCenter Sites のインストールを再度開始する必要があります。

- 2 番目のステージでは、WebCenter Sites が機能するために必要な表とデータがインストーラによってデータベースに移入されます。2 番目のステージが失敗した場合は、データベース表を削除し、WebCenter Sites アプリケーションをアンデプロイし、WebCenter Sites ファイル構造を削除してから、WebCenter Sites を再インストールする必要があります。

インストールのオプション

この項では、WebCenter Sites を WebLogic アプリケーション・サーバーにインストールする方法について説明します。

- GUI インストーラの実行
GUI インストーラを実行すると、グラフィカル・インターフェースによってインストール手順が示され、必要に応じて情報の入力およびオプションの選択が要求されます。また、オンライン・ヘルプにアクセスすることもできます。
- サイレント・インストール
サイレント・インストールの場合は、提供されているサンプル `omii.ini` ファイルの 1 つに、そのファイル内のコメントを参考にしてインストール設定を入力します。ファイル内の設定は、WebCenter Sites のインストールおよびデプロイに使用されます。

WebCenter Sites を Web アプリケーションとしてインストールする手順は、[65 ページの「Web アプリケーションとしての WebCenter Sites のインストール」](#) を参照してください。

Web アプリケーションとしての WebCenter Sites のインストール

注意

WebCenter Sites インストーラには、CAS のインストールも含まれています。デフォルトでは、CAS はプライマリ・サーバーにインストールされます。

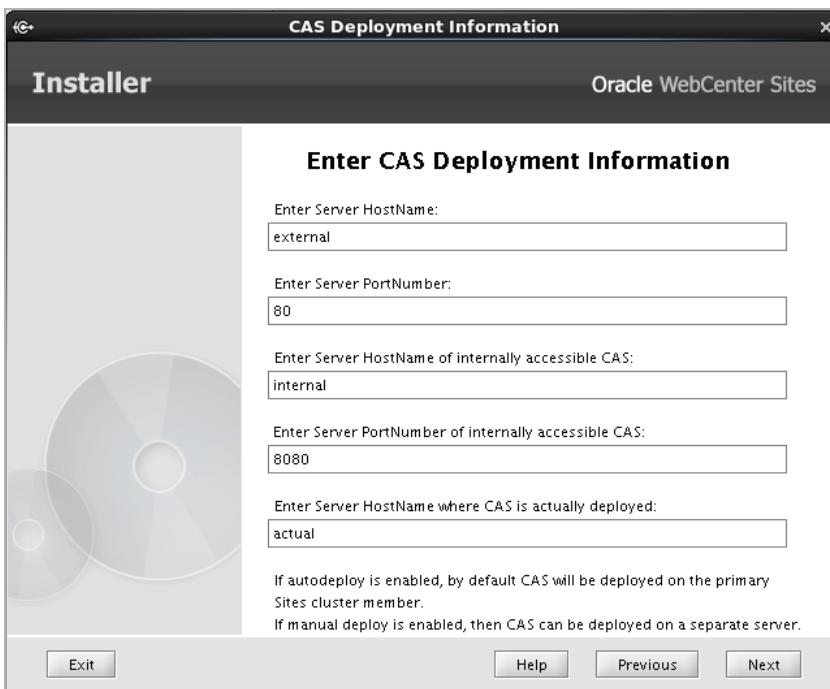
- GUI インストーラの実行
- サイレント・インストール

GUI インストーラの実行

GUI インストーラを使用して WebCenter Sites をインストールするには：

1. 9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」の手順 I–IV の 1. までを完了済であることを確認します。
 2. WebCenter Sites インストーラ・アーカイブを一時ディレクトリに抽出します。
 3. インストーラ・ファイルが含まれている一時ディレクトリに移動します。
 4. 次のインストーラ・スクリプトを実行します。
 - Windows の場合 : `csInstall.bat`
 - UNIX の場合 : `csInstall.sh`
- インストーラでは、画面ごとにオンライン・ヘルプが提供されています。各画面に表示されているオプションの詳しい説明は、オンライン・ヘルプをお読みください。インストール・プロセス中に問題が発生した場合は、オンライン・ヘルプを参照して、考えられる原因と解決策を検討してください。
5. CAS デプロイメント情報の入力画面で、次のいずれかを実行します。
 - ファイアウォールを使用しているネットワークの場合、各フィールドに次のように入力します。
 - サーバー・ホスト名を入力 : 外部ネットワークによって参照されている CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、外部に公開されているロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - サーバー・ポート番号を入力 : 外部ネットワークによって参照されている CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、外部に公開されているロード・バランサのポート番号を入力します。
 - 内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ホスト名を入力 : 内部ネットワークによって参照されている CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、内部ネットワークによって参照されているロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。

- 内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ポート番号を入力: 内部ネットワークによって参照されている CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、内部ネットワークによって参照されているロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
- CAS が実際にデプロイされているサーバー・ホスト名を入力: CAS がデプロイされるマシンのホスト名を入力します。
- ファイアウォールを使用していないネットワークの場合、各フィールドに次のように入力します。
 - サーバー・ホスト名を入力: CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - サーバー・ポート番号を入力: CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのポート番号を入力します。
 - 内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ホスト名を入力: CAS サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - 内部的にアクセス可能な CAS のサーバー・ポート番号を入力: CAS サーバーのポート番号を入力します。CAS をクラスタ化する場合は、ロード・バランサのポート番号を入力します。
 - CAS が実際にインストールされているサーバー・ホスト名を入力: CAS がデプロイされるマシンのホスト名を入力します。



6. インストールの途中で、インストーラによってインストール・アクション・ウィンドウが表示され、インストールを完了するために必要な手順が示されます。次を実行します。
 - a. WebCenter Sites アプリケーションおよび CAS アプリケーションをデプロイします。手順については、49 ページの「[Web アプリケーションのデプロイ](#)」を参照してください。
 - b. インストール手順を続行する前に、次を実行します。
 - 1) Ehcache が適切に機能するように、WEB-INF/classes フォルダの WebCenter Sites がデプロイされているディレクトリにある cas-cache.xml、cs-cache.xml、ss-cache.xml、および linked-cache.xml ファイルを編集します。次のフィールドは、キャッシング・タイプごとに一意にする必要があります。
 - multicastGroupAddress
 - multicastGroupPort
 - timeToLive

注意

クラスタをセットアップする場合は、クラスタ・メンバー全体にわたって、対応する各ファイルの値が同一になっていることを確認します。timeToLive フィールドを編集し、マルチキャスト・パケットの伝播を制御します。設定可能なオプションのリストは次のとおりです。

- 1- (マルチキャスト・パケットは同じサブネットに制限されます)
- 32- (マルチキャスト・パケットは同じサイトに制限されます)
- 64- (マルチキャスト・パケットは同じリージョンに制限されます)
- 128- (マルチキャスト・パケットは同じ大陸に制限されます)
- 255- (マルチキャスト・パケットに制限はありません)

- 2) <cs_install>/bin ディレクトリの下にある jbossTicketCacheReplicationConfig.xml ファイルを編集します。次のフィールドの値が一意になっていることを確認します。
 - mcast_addr

- mcast port

注意

CAS クラスタをセットアップする場合は、各クラスタ・メンバーで、次のフィールドの値が同一になっていることを確認します。

- ClusterName
- mcast addr
- mcast port
- ip_ttl (この値は、使用しているネットワークに応じて 1 または 32 に設定します)

CAS クラスタのセットアップの詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。

- 3) Oracle データベースを使用していて、2,000 文字を超えるテキスト属性を必要としている場合は、cc.bigtext プロパティを CLOB に設定します。
 - 1) 「プロパティ・エディタ」ボタンをクリックしてプロパティ・エディタを開きます。
 - 2) プロパティ・エディタで futuretense.ini ファイルを開きます。
 - 3) 「データベース」タブをクリックします。
 - 4) cc.bigtext プロパティを見つけ、その値を CLOB に設定します。
 - 5) 変更内容を保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
7. リストされているインストール手順を完了します。
8. インストールが正常に完了したら、71 ページの「インストール後の手順」に進みます。

サイレント・インストール

WebCenter Sites をサイレント・インストールするには：

1. 9 ページの「インストールのクイック・リファレンス」の手順 I–IV の 1. までを完了済であることを確認します。
2. WebCenter Sites インストーラ・アーカイブを一時ディレクトリに抽出します。
3. 一時ディレクトリの `Misc/silentinstaller` フォルダに、サイレント・インストールに使用できるサンプル `omii.ini` ファイルが含まれています。説明については、ファイル内のコメントを参照してください。
 - コンテンツ管理または開発システムの Web インストールをインストールする場合は、`bea_omii.ini` ファイルを使用します。次の変更を行います。
 - `CSInstallbManual` を `true` に設定します。

- CSManualDeployPath を非コメント化し、そのパスを、インストーラによって WebCenter Sites アプリケーションがデプロイされるディレクトリに設定します。
 - 配信システムの Web インストールをインストールする場合は、`delivery_omii.ini` ファイルを使用します。次のプロパティを追加します。

```
CSInstallWLDomainPath=<WebLogic ドメインのパス>
CSInstallbManual=true
CSManualDeployPath=<インストーラによって WebCenter Sites がデプロイされるディレクトリのパス>
```

 - a. デフォルト値を検証し、必要に応じて追加の値を入力することで、インストール・タイプに合わせてファイルを編集します。
 - b. `omii.ini` ファイルを保存し、それを `<cs_install_dir>` の外のフォルダにコピーします。
4. 配信システムをインストールする場合、`fwadmin` および `ContentServer` / `SatelliteServer` ユーザーに一意のパスワードを設定する必要があります。
- a. 一時ディレクトリの `ContentServer` フォルダにある `cscore.xml` ファイルを開きます。
 - b. 次のセクションでパスワードを設定します。

```
<IF COND="Variables.bShowInstallTypeDialog=false">
<THEN>
  <DIALOGACTION>
    <SETVARIABLE NAME="passwordVar" VALUE=" " />
    <SETVARIABLE NAME="passwordAdminVar" VALUE=" " />
  </DIALOGACTION>
</THEN>
</IF>
```

- 1) `NAME="passwordVar"` の後の `VALUE` フィールドに `fwadmin` ユーザーのパスワードを設定します。
 - 2) `NAME="passwordAdminVar"` の後の `VALUE` フィールドに `ContentServer` / `SatelliteServer` ユーザーのパスワードを設定します。
- c. ファイルを保存して閉じます。

5. 一時ディレクトリのルート・フォルダにある `install.ini` ファイルを編集します。
 - a. `nodisplay` プロパティを `true` に設定します。
 - b. `loadfile` プロパティを非コメント化し、それをステップ b の `omii.ini` ファイルのパスと名前に設定します。

注意

ファイル・システム・パスを正しく指定したことを検証します。たとえば、Windows の場合は次のようにになります。

`CSInstallDirectory=C¥:/csinstall`

または

`c¥:¥¥install`

- c. ファイルを保存して閉じます。
6. インストーラ・ファイルが含まれている一時ディレクトリに移動します。
7. 次のインストーラ・スクリプトを実行します。
 - Windows の場合 : `csInstall.bat -silent`
 - UNIX の場合 : `csInstall.sh -silent`
8. インストールを完了するには、[67 ページのステップ 6–8](#) を参照してください。
9. インストールが正常に完了したら、[71 ページの「インストール後の手順」](#) を続行します。

インストール後の手順

WebCenter Sites のインストール・プロセスが正常に完了したら、次の手順を実行します。

- A. ファイルの権限の設定 (UNIX のみ)
- B. XML パーサーのロード
- C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加
- D. WebCenter Sites のインストールの検証
- E. WebLogic の本番モードへの切替え (配信システムのみ)
- F. WebCenter Sites との Oracle Access Manager (OAM) の統合 (オプション)
- G. LDAP の統合

A. ファイルの権限の設定 (UNIX のみ)

UNIX 上に WebCenter Sites をインストールした場合は、`<cs_install_dir>/bin` ディレクトリのすべてのファイルに executable 権限を付与する必要があります。そのためには、次の手順を実行します。

1. `<cs_install_dir>/bin` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを実行します。 `chmod +x *`
3. 対応する WebLogic Server を再起動します。

B. XML パーサーのロード

WebCenter Sites には、Microsoft XML Parser の変更されたバージョン (WEB-INF/lib ディレクトリにある `MSXML.jar`) が含まれています。そのパーサーの異なるバージョンが WebCenter Sites CLASSPATH 環境変数で参照されている場合は、WebCenter Sites で使用されるバージョンを参照するようにそのパスを変更する必要があります。そうしないと、XML の解析時に WebCenter Sites が失敗します。

C. ライブラリ・パス変数への WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリの追加

注意

クラスパスおよびライブラリ・パスが適切に設定されていないと、WebCenter Sites の Admin インタフェースの「管理」タブにある「システム・ツール」ノードの機能が制限され、CAS の起動が失敗します。

ContentServer コンポーネントが WebCenter Sites で機能するようにするには、WebCenter Sites バイナリ・ディレクトリ `<cs_install_dir>/bin` を次のようにライブラリ・パス変数に追加する必要があります。

- HP-UX の場合：
`<cs_install_dir>/bin` を `SHLIB_PATH` に追加します。

- Linux および Solaris の場合：
<cs_install_dir>/bin を LD_LIBRARY_PATH に追加します。
- AIX の場合：
<cs_install_dir>/bin を LIBPATH に追加します。
- Windows の場合：
<cs_install_dir>\bin を、使用システムの PATH 変数に追加します。

AIX および Solaris をベースとするシステムでは、Installer フォルダ (WebCenter Sites インストーラの抽出先) にある *sigar/bin/<os_type>* フォルダから適切なライブラリ・ファイルを <cs_install_dir>/bin ディレクトリに手動でコピーする必要があります。その後で、<cs_install_dir>/bin ディレクトリから正しくないバージョンを削除します。

たとえば、AIX 64 ビットの場合、*libsigar-ppc64-aix-5.so* を <Installer>/*sigar/bin/AIX64/* から <cs_install>/bin ディレクトリにコピーし、*libsigar-ppc-aix-5.so* を <cs_install>/bin ディレクトリから削除します。

注意

WebCenter Sites ログ・ファイル内の次のメッセージは、正しいライブラリがライブラリ・パスに見つからないことを示します。

“UnsatisfiedLinkError caught: Content Server is unable to gather/display system information. Ensure that *java.library.path* (or **LD_LIBRARY_PATH**) is pointed to *CSInstallDirectory/bin*”

そのような場合は、アプリケーション・サーバーに対して -
Djava.library.path=<cs_install_dir>/bin を設定します。

デフォルトの WebCenter Sites ログ・ファイル (*sites.log*) は、インストール・プロセス中に <cs_install_dir>/logs ディレクトリに作成されます。

D. WebCenter Sites のインストールの検証

Oracle WebCenter Sites に全体管理者としてログインし、WebCenter Sites の Admin、Contributor、および WEM Admin インタフェースにアクセスすることでインストールを確認します。この手順では、(WebCenter Sites からログアウトしてから再びログインすることなく異なるアプリケーションにアクセスすることで) シングル・サインオン機能を検証します。

WebCenter Sites のインターフェースにアクセスするには：

1. ブラウザで次の URL をポイントします。

`http://<server>:<port>/<context>/login`

ここで <server> は WebCenter Sites を実行しているサーバーのホスト名または IP アドレス、<port> は WebCenter Sites アプリケーションのポート番号、<context> はサーバー上にデプロイされた WebCenter Sites アプリケーションの名前です。

WebCenter Sites のログイン・フォームが表示されます。

2. 次の資格証明を入力します。
 - ユーザー名 : **fwadmin**
 - パスワード : **xceladmin**
3. 「ログイン」をクリックします。
4. WEM Admin インタフェースにアクセスします。「サイト」ドロップダウンで、「AdminSite」および WEM Admin インタフェースのアイコンを選択します。

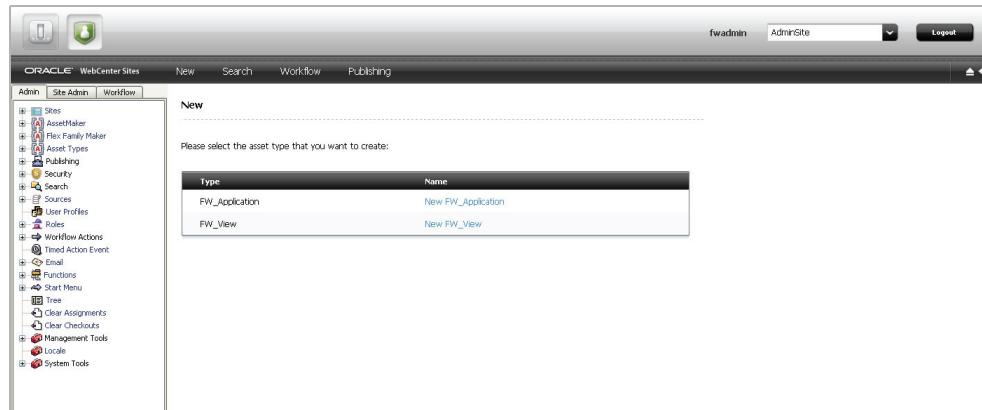
WEM Admin インタフェース (AdminSite 上) が表示されます。

SITE NAME	DESCRIPTION
AdminSite	AdminSite
FirstSiteII	FirstSite II
avispports	avispports

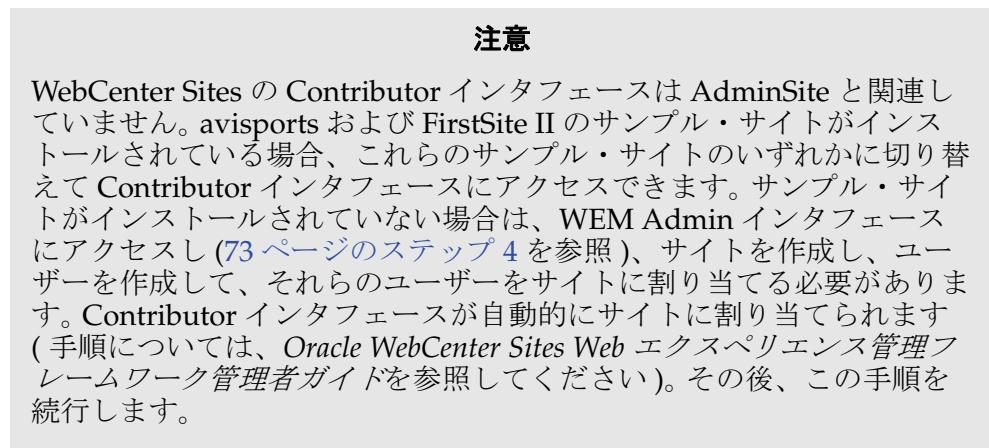
5. アプリケーション・バーに移動し、WebCenter Sites の **Admin** インタフェースのアイコンを選択することで WebCenter Sites の Admin インタフェースに切り替えます。



WebCenter Sites の Admin インタフェース (AdminSite 上) が表示されます。使用できるのはシステム管理機能のみです。



6. 次のように WebCenter Sites の Contributor インタフェースに切り替えます。



- a. アプリケーション・バーに移動します。サイト選択ドロップダウン・メニューで、AdminSite 以外のサイトを選択します。

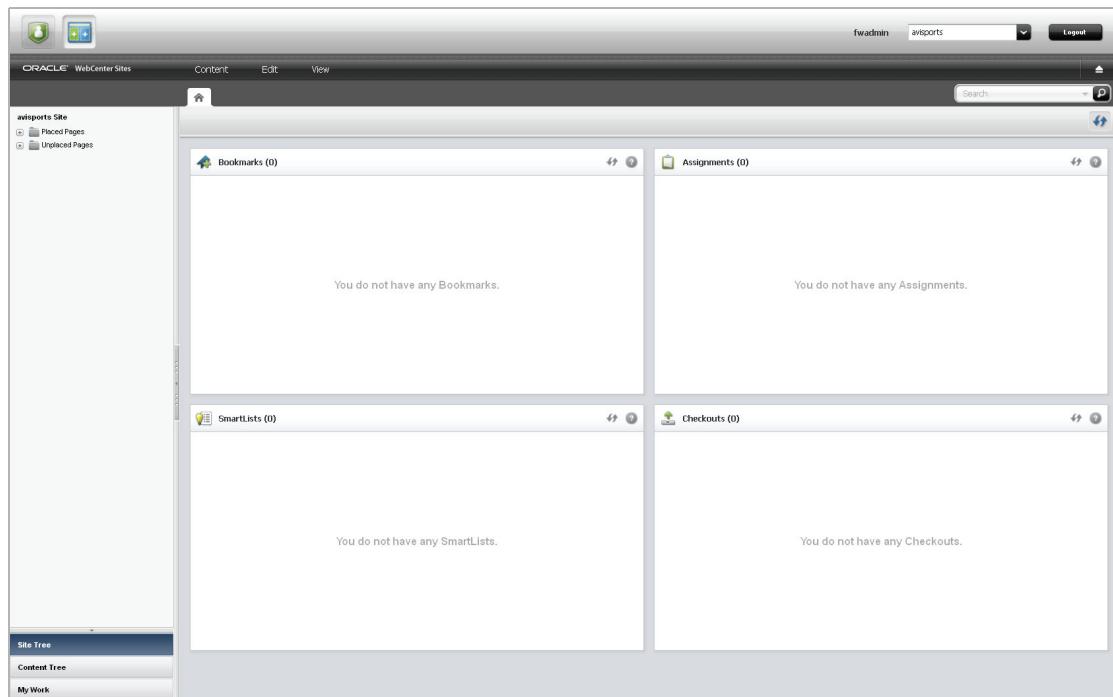


- b. これが、選択されているサイトへの初めてのアクセスであるため、次の画面が表示されます。Contributor インタフェースのアイコンを選択します。



(後続のアクセスでは、選択したサイトで最後にアクセスしたアプリケーションが開きます。)

ログインしているサイトの Contributor インタフェースが次のように表示されます。



これで WebCenter Sites を構成する準備が整いました。この章の残りの手順に従ってください。

E. WebLogic の本番モードへの切替え (配信システムのみ)

配信システムを作成した場合は、WebLogic を本番モードに切り替えます。

1. WebLogic 管理コンソールにログインします。
2. ツリーのドメイン名をクリックします。
3. 「一般」タブをクリックします。
4. 「本番モード」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
5. 「保存」をクリックします。
6. 「変更の承諾」をクリックします。

- すべてのサーバーを再起動します。

注意

本番モードをオフにする必要がある場合、前の項 [49 ページの「weblogic.Deployer 用の環境のセットアップ」](#) に示すように weblogic.deployer の環境を設定し、次のコマンドを実行します（新しいウィンドウを開くことを想定）。

```
java weblogic.Admin -url :<admin_listen_port>/" href="http://
/:<admin_listen_port>"http://
<listening_address>:<admin_listen_port> -username
weblogic -password demo4132 SET -type Domain -property
ProductionModeEnabled false
```

- すべてのサーバーを再起動した後、次のエラーが表示されることがあります。

<BEA-090782>< サーバーは本番モードで実行されています。コマンドラインから パスワードを安全に読み取るためのネイティブ・ライブラリ (terminalio) が見つかりません。>

このエラーが表示された場合、次を行います。

- WebLogic 開始スクリプトを変更します。スクリプトは次のとおりです。

- <domain_home>/bin/startWebLogic.sh
- <domain_name>/bin/startManagedWebLogic.sh

（Windows を使用している場合、ファイルの拡張子は .sh ではなく .cmd です。）

次を（1行として）各スクリプトに追加します。

```
JAVA_OPTIONS="${JAVA_OPTIONS} -
Dweblogic.management.allowPasswordEcho=true"
```

- すべてのサーバーを再起動します。

F. WebCenter Sites との Oracle Access Manager (OAM) の統合（オプション）

CAS を Oracle Access Manager (OAM) に置き換える場合は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成* の手順を参照してください。

G. LDAP の統合

LDAP との統合は、Web インストールの場合はオプションです。

LDAP の統合を実行する必要がある場合、次を実行します。

- 選択したサポートされている LDAP サーバーをセットアップします。詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成* を参照してください。
- WebCenter Sites CD に含まれている LDAP 統合プログラムを実行します。

詳細は、*Oracle WebCenter Sites: LDAP* との統合を参照してください。

注意

プライマリ・クラスタ・メンバー用に LDAP を構成済である場合、すべてのセカンダリ・クラスタ・メンバーに対して必ず `configuredLDAP.sh` を実行してください。

WebCenter Sites クラスタのセットアップ(オプション)

垂直クラスタをインストールする場合は、次の手順を完了します。

- A. 管理対象サーバーの追加
- B. 追加のクラスタ・メンバーの作成
- C. クラスタの作成および構成
- D. CAS クラスタのセットアップ(オプション)
- E. CAS の再デプロイ(オプション)

この項の手順を開始する前に、次の事項を確認します。

- 管理対象サーバーに完全な WebCenter Sites インストールがあること。
- 垂直クラスタをインストールしていること (WebLogic 管理対象サーバーが同じマシンにインストールされていること)。

A. 管理対象サーバーの追加

前の項で使用した管理対象サーバー以外に管理対象サーバーがない場合は、残りのクラスタ・メンバーごとに 1 つずつ作成する必要があります。それ以外の場合は、次の手順の「B. 追加のクラスタ・メンバーの作成」に進みます。

管理対象サーバーを追加するには :

1. WebLogic 管理コンソールにログインします。
2. 「環境」を開きます。
3. 「サーバー」をクリックします。
4. 「新規」をクリックします。
5. 新しい管理対象サーバーの名前を入力します。管理サーバーと同じリスニング・アドレスを入力します。リスニング・ポートを入力します。これは、管理サーバーおよび他の管理対象サーバーとは異なるポートです。「いいえ、これはスタンダードアロン・サーバーです。」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 「終了」をクリックします。
7. 「変更の承諾」をクリックします。
8. 「サーバー」をクリックします。

9. 作成した管理対象サーバーをクリックします。
10. 「構成」タブで「全般」をクリックします。
11. 「マシン」ドロップダウン・メニューで、ドメイン構成中に作成したノード・マネージャを選択します。
12. 「保存」をクリックします。
13. 新しい管理対象サーバーを起動します。
14. この手順を、追加の管理対象サーバーごとに繰り返します。

B. 追加のクラスタ・メンバーの作成

1. 管理対象サーバーを追加した後、次の項の手順をメンバーごとに繰り返すことでクラスタ・メンバーを作成します。
 - a. [64 ページの「WebCenter Sites のインストールの概要」](#)
 - b. [71 ページの「インストール後の手順」](#)
これを完了すると、少なくとも 1 つのプライマリ・クラスタ・メンバーと 1 つのセカンダリ・クラスタ・メンバーを持つようになります。
2. ここで、管理対象サーバーをクラスタ内に配置する必要になります。手順については、次の項に進んでください。

C. クラスタの作成および構成

ドメインの作成時にクラスタを作成および構成しなかった場合は、ここでそれを行う必要があります。この項では、管理対象サーバー (WebCenter Sites をホストする) をクラスタに配置します。

クラスタを作成および構成するには：

1. 次のようにクラスタを作成します。
 - a. 管理コンソールにログインします。
 - b. 「環境」を開きます。
 - c. 「クラスタ」をクリックします。
 - d. 「新規」をクリックします。
 - e. クラスタの名前を入力します。デフォルトのマルチキャスト・アドレスはそのままにします。「マルチキャスト・ポート」に管理ポートを入力します。「OK」をクリックします。
2. 次のようにクラスタにサーバーを追加します。
 - a. 管理コンソールにログインしているときに、「サーバー」をクリックします。
 - b. クラスタ・メンバーとなる管理対象サーバーごとに、次のように実行します。
 - 1) サーバー名をクリックします。
 - 2) 「構成」タブで、この項の前半で「クラスタ」ドロップダウン・メニューに作成したクラスタを選択します。

3) 「保存」をクリックします。

3. 次のようにファイル・ロックおよびクラスタ・パラメータを構成します。
 - a. クラスタ・メンバー上で実行されているアプリケーションを停止します。
 - b. <shared_dir> の下に sync ディレクトリを作成します。
 - c. クラスタ・メンバー上のアプリケーションごとに次のように実行します。
<cs_install_dir>/futuretense.ini ファイルを編集します。ft.sync をすべてのクラスタ・メンバーに対して同じ値に設定します。
ft.usedisksync を、作成した sync ディレクトリのパスに設定します。
4. <cs_install_dir>/bin のすべてのファイルを <wl_home>/wlserver_10.x/server/native/<os_type>/<os_version> にコピーします。
5. たとえば、Linux 上では、ファイルを <wl_home>/wlserver_10.3/server/native/linux/i686/ にコピーします。

注意

Linux 上では、宛先パスを PATH ステートメントに追加します。それを行うには、<domain_home>/bin/startWebLogic.sh および <wl_home>/wlserver_10.3/server/bin/startNodeManager.sh の 2 つのスクリプトを、最初のコメント・ブロックの後に次の行を追加することで編集します。

```
LD_LIBRARY_PATH="$LD_LIBRARY_PATH:<wl_home>/wlserver_10.3/server/native/linux/i686"  
PATH="$LD_LIBRARY_PATH:$PATH"  
export LD_LIBRARY_PATH  
export PATH
```

6. クラスタ・メンバーごとに、次のものを weblogic.xml ファイル (WebCenter Sites デプロイメント・ディレクトリの WEB-INF フォルダにある) の <weblogic-web-app> タグ内に追加します。

```
<session-descriptor>  
  <persistent-store-type>replicated</persistent-store-type>  
</session-descriptor>
```

7. クラスタ・メンバー上でアプリケーションを起動します。ログイン情報は、72 ページの「[WebCenter Sites のインストールの検証](#)」を参照してください。
8. CAS クラスタをセットアップする場合、次の項 [CAS クラスタのセットアップ\(オプション\)](#) に進みます。それ以外の場合は、81 ページの「[業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ](#)」に進みます。

D. CAS クラスタのセットアップ(オプション)

インストーラは、プライマリ WebCenter Sites クラスタ・メンバー上にのみ CAS をデプロイするように構成されています。別のサーバーに CAS をデプロイする場合は、手動で CAS をデプロイする必要があります。さらに、セカンダリ CAS クラスタ・メンバーを手動で構成およびデプロイする必要があります。詳細は、[Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成](#)を参照してください。

E. CAS の再デプロイ (オプション)

別のサーバーに CAS を手動で再デプロイすることが必要になることもあります。CAS の再デプロイの詳細は、*Oracle WebCenter Sites: サポート・ソフトウェアの構成*を参照してください。

業務目的に合わせた WebCenter Sites のセットアップ

WebCenter Sites のインストールを完了すると、業務で使用するためにそれを構成する準備が整います。手順については、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』および『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。これらのガイドでは、データ・モデル、コンテンツ管理サイト、サイト・ユーザー、パブリッシュ関数、およびクライアント・インターフェースなどのコンテンツ管理環境を作成および有効化する方法について説明しています。

